●国際連合大学 2017-2018 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

2018 年 1 月 16 日（火） ― 1 月 22 日（月）

国　　際　　連　　合　　大　　学（UNU）
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

●国際連合大学 2017-2018 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

2018 年 1 月 16 日(火) ― 1 月 22 日(月)

国　際　連　合　大　学（UNU）
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

はじめに

国際連合大学（United Nations University）は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取組に、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002 年に主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。2000 年に設立された「ユネスコ青年交流信託基金」で実施されていた「韓国教職員招へいプログラム」は、同年より本事業のもとで開催されることとなり、同大学からの委託を受けて公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が実施を担当し、昨年まで 17 回にわたり、1,995 名の韓国の教職員を日本に招へいしてきました。

今回の国際連合大学国際教育交流事業・韓国教職員招へいプログラムは、2018 年 1 月 16 日（火）から 1 月 22 日（月）までの 7 日間にわたり、韓国の小・中・高等学校の教職員等 97 名を我が国に招へいしました。このプログラムは学校およびその他の教育・文化施設を訪問・見学することにより、日本の教育制度およびその現状についての理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としています。

実施にあたりましては、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部、および大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワーク・池田町教育委員会（岐阜県）・愛知県教育委員会の各受入機関、訪問校、その他の教育・文化施設等、多数の方々の多大なるご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2018 年 3 月
国際連合大学
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

目次

はじめに

第Ⅰ章　実施内容

1. 全体プログラム（東京近郊）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
2. 地域受入れプログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
3. 全体プログラム（京都府）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

第Ⅱ章　参加者アンケート

参加者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

第Ⅲ章　関係者コメント

1. 地域プログラム受入機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
2. 訪問校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
3. 主催・実施機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

付録

1. 実施要項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
2. プログラム日程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
3. 参加者リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
4. 関係機関リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
5. 過去のプログラム実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

第Ⅰ章

実施内容

1. 全体プログラム（東京近郊）

2. 地域受入れプログラム

3. 全体プログラム（京都）

１.全体プログラム（東京近郊）

来日、オリエンテーション・講義（第１日）

「韓国教職員招へいプログラム」の参加者 97 名は、2018 年 1 月 16 日（火）に来日した。羽田空港より入国し、昼食後、宿泊先であるホテルサンルート有明にて、プログラムのオリエンテーションが行われた。

はじめに、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）人物交流部の進藤由美部長が参加者に歓迎のあいさつを述べた。続いて、各グループに随行する ACCU 随行職員、プロジェクトスタッフ、通訳、添乗員が紹介され、最後に担当職員より韓国語でプログラム日程の説明や滞在ガイダンス等が行われた。

続いて、同会場にて、「日本の初等中等教育について」というテーマで、文部科学省初等中等教育局国際企画調整室の市川清治氏による講義が行われた。講義の概要は以下の通りである。

①学校体系
②学校数、児童・生徒、教員数
③義務教育制度の概要
④義務教育費国庫負担制度の概要
⑤教員養成･免許･採用･研修制度の概要
⑥教科書制度
⑦教育委員会制度の仕組みと趣旨
⑧教育行政における国･都道府県･市町村の役割分担
⑨「学校」の在り方の国際比較
⑩日本の学校教育の特徴
・全人的な学び
・授業研究
⑪学習指導要領
⑫「学力の三要素」と「生きる力」について
⑬学習指導要領の変遷
⑭学習指導要領改定の考え方
⑮主体的･対話的で深い学びの実現
⑯「次世代の学校･地域」創生プランの実現に向けて

質疑応答では、韓国教職員より「豊かな人間性とは、何を指すのか」、「道徳の授業の内容について」などの質問があがった。

休憩を挟み、同会場にて、「日本のユネスコスクールについて」というテーマで、ACCU 教育協力部の藤本早恵子プログラムスペシャリスト／ユネスコスクール事務局ユニットリーダーによる講義が行われた。講義の概要は以下の通りである。

Ⅰ）ACCU の紹介
①沿革
②活動方針
Ⅱ）日本のユネスコスクールについて
①ユネスコスクールとは
②国内の加盟状況
③加盟校数の推移
④日本のユネスコスクールの特徴
⑤加盟申請プロセス
⑥加盟後の更新条件

⑦ユネスコスクールに対する支援
⑧ユネスコスクール関連事業例

質疑応答では、「発展途上国を対象にした交流プログラムの実施計画について」、「ESD と GCED の違いについて」などの質問があがった。


講義「日本のユネスコスクールについて」

歓迎レセプション（第 1 日）

同日夜、同会場にて、歓迎レセプションが行われた。はじめに国際連合大学サステイナビリティ高等研究所の古田知美事務局長より韓国語を交えた歓迎のあいさつがあり、続いて、訪問団を代表して団長を務める韓国ユネスコ国内委員会（KNCU）のキム・グァンホ事務総長が日本語で答礼を述べた。両氏のあいさつ後、記念品交換の時間が持たれ、国際連合大学と訪問団、文部科学省と韓国教育部、ACCU と KNCU がそれぞれ記念品交換を行った。続いて、韓国の伝統衣装に身を包んだ韓国教職員による歌と踊りの出し物があり、会場はおおいに盛り上がりをみせた。そして文部科学省大臣官房国際課の里見朋香課長の乾杯の音頭で歓談が始まった。

歓談の時間が終わると、ACCU の足立直樹理事が閉会の辞を述べ、歓迎レセプションは幕を閉じた。


韓国教職員による出し物（歓迎レセプション）

東京近郊校訪問（第 2 日）

A グループ

麹町学園女子中学校・高等学校

プログラム 2 日目の 1 月 17 日（水）、A グループ一行は麹町学園女子中学校・高等学校を訪問した。同校は、「聡明･端正」を校訓として 112 年にわたり女子教育を実践している。また、豊かな人生を自らデザインでき、国際社会に貢献できる女性を育成する取組みを行っている。多様化する社会で新たな価値を創造できる自立した人材となるための独自プログラム「みらい科」があり、学校周辺の環境、日本と平和、世界の中の女性といったテーマを設け、講師を招いたり、フィールドワークやプレゼンテーションを行っている。

学校到着後、歓迎セレモニーが行われ、同校の相川忠洋理事長と山本三郎校長より歓迎の挨拶があった。訪問団からは木浦徳仁（モッポトクイン）高等学校の校長であるムン･ジョンヒョン氏が答礼を述べ、その後、ムン・ジョンヒョン氏と山本校長により記念品交換が行われた。その後、同校の馬渕和士教頭より学校概要説明があ

り、同校が目指す「みらい型学力」のためのアクティブイングリッシュ、みらい科、グローバルプログラム、思考型授業について、また華道・茶道指導、学校行事、海外研修プログラムなどについて説明を受けた。また、ユネスコスクール担当である西嶋桃子教諭より同校のユネスコスクール活動についての説明があった。

続いて、韓国教職員による文化授業が行われた。全州新興（ジョンジュシンフン）高等学校教頭のイム･ヒジョン氏が行った授業では日本への留学経験もあるユン･ドンジュという詩人の詩を一緒に朗読したり、韓国の伝統民俗芸能であるパンソリを体験した。また陽青（ヤンチョン）中学校教頭のジョン･フンスン氏の授業では朝鮮の庶民たちの暮らしを描いた画家キム･ホンドの絵を鑑賞し、5 つのグループに分かれてその絵がどのような絵なのかを考え発表した。

その後、3 つのグループに分かれて授業参観が行われた。中学 3 年生のダンス、高校 2 年生の家庭科と英語、中学 1 年生の英語、中学 2 年生の国語、英語学習のためのアイラウンジなどを見学し、韓国教職員たちは授業の様子を興味深く見学した。授業参観後、昼食を挟んで、ユネスコスクールの活動の一環として行われている「ブックトーク」の授業や自主論文発表会の様子などを見学した。その後、会議室に戻り質疑応答・意見交換の時間に入った。質疑応答では、「生徒の募集方法について」、「海外研修プログラムについて」、「英語ネイティブ教員の人数」などさまざまな質問があがった。終了後、学校玄関に移動し記念撮影を行い、一行は別れを惜しみながら学校をあとにした。


文化授業で朝鮮の風俗画を鑑賞する様子
（麹町女子中学校・高等学校）

B グループ

東京都市大学等々力中学校･高等学校

B グループの参加者 32 名は、1 月 17 日（水）、東京都世田谷区の東京都市大学等々力中学校･高等学校を訪問した。共学の中高一貫校である同校は、生徒の学力向上は言うまでもなく、人格形成のための教育にも力を入れており、夢や目標に向かって高い志を持った高潔な人格と進んで社会貢献できる資質の涵養を意味する「ノブレスオブリージュ」と「国際社会を舞台として活躍し、公正で品格のあるグローバルリーダーの育成」を掲げている。

学校到着後、同校生徒が歓迎の横断幕を持って訪問団を迎えた。続いて、歓迎セレモニーが行われ、同校の原田豊校長より歓迎のあいさつ、記念品の贈呈があった。そして、原田校長より学校概要の説明があった後、同校の生徒も交えて記念撮影をした。

続いて、訪問団はカフェテリアに案内され、同校の生徒によるコーヒーのおもてなしを受けた。そして、訪問団は 3 グループに分かれて、授業見学及び施設見学を行った。学年集会などが行われるホールや、中学 1 年生の菜園の様子、各フロアに設置してある職員室、生徒会室、イングリッシュ

サロン（留学生との交流スペース）、中学1~2年生で200回行われるという理科の実験の様子、国語の授業、アナライズセンター（毎朝実施されるテストの採点が行われる）、生徒が自由に使用できる自習室、図書室などを見学した。

授業見学後、ホールにて同校の生徒や教職員を交えて給食を体験し、交流を深めた。

その後、訪問団は3グループに分かれ、同校の教職員と生徒と意見交換を行った。意見交換では、教職員同士では、「同校を受験するための準備について」、「合格の倍率」、「生徒の学習へのストレス」、「給食の満足度」、「いじめや生徒による暴力への対処方法」、「英語教育について」、「成績の評価方法」などについて意見が交わされ、同校の生徒に対しては、「最近興味があること」などの質問があがった。

最後に、訪問団を代表して公峴津（ゴンヒョンジン）小学校の校長キム・ギスン氏よりお礼のあいさつがあり、原田校長に記念品を贈呈した。同校の教職員および生徒は、バスが出発するまで訪問団を見送り、訪問団も名残惜しみつつ同校の訪問を終えた。


意見交換会（東京都市大学等々力中学校･高等学校）

C グループ

渋谷教育学園幕張中学校･高等学校

C グループの参加者 34 名は、1 月 17 日（水）、千葉県千葉市にある渋谷教育学園幕張中学校・高等学校を訪問した。同校は創立 35 年目の中高一貫校である。2010 年にユネスコスクール指定を受け、2014 年度からは5年間スーパーグローバルハイスクールに指定された。

到着後、歓迎セレモニーが行われた。田村聡明副校長より歓迎の挨拶があり、訪問団を代表して、京畿道の中山（ジュンサン）高等学校校長のチェ・ビョングック氏が答礼を述べた。続いて、田村副校長と全南（ジョンナム）外国語高等学校校長のキム・ソックス氏により記念品贈呈が行われた。

ビデオを視聴しながら学校紹介が行われ、同校の田村哲夫校長の歓迎の言葉が贈られた後、2 グループに分かれて授業および施設見学をした。

校内をまわりながら、室内プール、図書館、運動場、体育館が紹介され、ネイティブ教員による帰国生のための英語のライティング、合唱祭に向けて練習をしている音楽、数学を含むさまざまな授業を見学した。プールは教員による利用も可能であり、奥にはサウナも設置されているという説明があると、「学校にプールがあるのはうらやましい」の声が聞こえた。

その後、同校のカフェテリアにて学食体験が行われた。韓国では高校まで給食を提供する学校がほとんどであるため、学食や生徒の持参していた手作り弁当に注目する参加者も多かった。

昼食後の休み時間には訪問団が生徒達と交流する時間が設けられた。訪問団は入

試の競争率が 20 倍だと聞き、どのように勉強して合格出来たか、学校の規則は厳しくないかなどの質問をし、「学校の規則が厳しいわけでもないのに、生徒達が自ら勉強に励み、生徒らしい姿であり続けることがすばらしい」と感想を語り合った。

その後、3 クラスに分かれ、韓国教職員による文化授業が行われた。韓国の伝統的な遊びのチェギチャギ・ユンノリ（すごろく）・タクチ（めんこ）、ハングルの書き方に関する授業が行われた。授業を受けた生徒からは「やり方はよく分からなかったが、とても楽しかった。韓国語にも触れることができ、うれしかった」などの反応が見られた。

続いて行われた教員交流では、質疑応答で、「教科による教授法の違い」、「茶道のような伝統を学ぶ科目」、「モンスターペアレントの経験」、「成績の評価の仕方」など様々な話題があがった。

最後に第 2 啓発室と呼ばれる 400 名ほどを収容できる大きなホールで記念撮影が行われ、同校の訪問プログラムを終了した。



生徒達の話に耳を傾ける韓国教職員
（渋谷教育学園 幕張中学校・高等学校）

2.地域受入れプログラム

A グループ：
大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワーク

元通（ウォントン）高等学校の校長であるイ・ウヒョン氏をグループ長とする A グループは、1 月 18 日（木）から 20 日（土）までの 3 日間、大阪府を訪問した。大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークが受入機関となり、小学校 1 校、高校 2 校、オルタナティブ・スクール 1 校を訪問したほか、四天王寺見学や ESD ワークショップなど同ネットワーク加盟校の児童生徒との交流活動や、ホームビジットが実施された。

◆ 国立大学法人大阪教育大学附属高等学校池田校舎学校訪問

1 月 18 日（木）、一行は大阪教育大附属高等学校池田校舎を訪問した。同校は、1956 年 4 月の創立当初より個を大切にし、生徒の自由・自主・自律を尊ぶ校風が培われてきた。2004 年 1 月にユネスコスクールとなり、韓国や中国をはじめたくさんの国々と学びの交流を行ってきた。

学校に到着すると、同校の生徒から熱い歓迎を受けた。生徒は事前に準備したうちわを手に持っており、そのうちわには、韓国教職員 1 人ひとりの名前がハングルで書かれており、韓国教職員からは、「学校に到着した瞬間から感動した」との感想があがった。その後、玄関で記念撮影を行い、会議室で歓迎セレモニーが行われた。

歓迎セレモニーでは、同校の瀬戸口昌也

校舎主任から歓迎のあいさつがあり、続いて大清（デチョン）小学校の校長であるキム・ジョンヒ氏が答礼を述べた。そして記念品交換が行われた。

続いて、同校の田中誠一副校長より高等学校の紹介がなされ、キャンパス、小中高の進学、ユネスコスクールへの加盟およびESD活動、韓国の学校との交流事例などが紹介された。また、続いて、附属池田小学校の荒川真一副校長より小学校の説明が行われ、安全教育や国際交流の事例が紹介された。

学校説明が終わると、2つのグループに分かれて、小学校と高校の校舎を見学した。小学校では、過去の事件をきっかけに、研究・実践してきた安全対策を中心に説明を受けながら見学を行った。各教室見学では、教室の出入り口がガラス戸であること、廊下を挟んで教室が交互に配置されていることなど、他の教室の様子が把握できるような工夫がされていた。その後、一行は正門に向かい、過去の事件によって亡くなった児童のために建てられた8つの鐘がついた碑の前で校長とともに黙祷を捧げた。

高校の授業を見学したグループは、総合的な学習の時間で行われているESD活動を見学した。生徒がグループごとに、それぞれのテーマについてまとめた模造紙を用いて、訪問団員に英語で発表し、訪問団員からもたくさんの質問があがった。

それぞれの見学が終わると、会議室に戻り、ESDの実践報告が行われた。治部浩三教諭からの高等学校での実践例発表では、ある学年が2年間を通して行った授業内容の説明や、韓国の高等学校との交流事例などが紹介された。また、池田小学校の荒川副校長による安全教育についての説明では、安全設備、校内の監視システム、不審者対応訓練などについて説明があったほか、実際に訓練の映像を鑑賞した。質疑応答には、「安全対策に関する職員の訓練は年間計画にあるのか」、「遊具からの落下などの事故に対してはどのような対策をしているか」などの質問や、「徹底して児童に向き合う姿勢に感動した」などの感想があがった。最後に高等学校の田中副校長より、あいさつがあった。バスに向かう途中、体育館で部活動を見学し、別れを惜しみながら一行は同校をあとにした。



ESD活動見学（大阪教育大附属高等学校池田校舎）

◆ 歓迎レセプション

同日夜、ホテルアウィーナ大阪にて、大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワーク主催の歓迎レセプションが行われた。まず、同ネットワークの山下克弘代表があいさつで歓迎の意を表し、続いて、訪問団からはグループ長のイ・ウヒョン氏が答礼を述べ、同ネットワークと訪問団の記念品交換が行われた。次に、韓国教職員が感謝の気持ちを込めて歌を披露した。大阪教育大学附属高等学校池田校舎の田中誠一副校長が乾杯の音頭をとり、楽しい歓談の時間が始まった。

歓談をはさみ、プログラム 1 日目の様子がスライドショーで流された。また、同ネットワークの伊井直比呂事務局長より同ネットワークの歴史、日韓交流の歴史についての説明があり、本事業の韓国側の実施団体である KNCU と深いつながりについてもあらためて参加者に紹介された。

そして歓談後、最後に翌 19 日に訪問団を迎える学校からの歓迎のことばがあり、大阪市立晴明丘小学校の柴山雅由校長、NPO 法人箕面こどもの森学園の藤田美保校長、大阪府立松原高等学校の平野智之校長からのあたたかいメッセージと共に歓迎レセプションは幕を閉じた。


歓談する訪問団と日本の教職員（歓迎レセプション）

◆ NPO 法人箕面こどもの森学園訪問

1 月 19 日（金）午前、2 グループに分かれた A グループのうち、チーム I は、NPO 法人箕面子どもの森学園を訪問した。同校は、『子どもは自ら学ぶ意欲を持ち、自らの力で学ぶことができる』という理念のもと、子ども 1 人ひとりの個性を尊重し知性・感情・創造性をのびやかに育てるオルタナティブ・スクールである。学園では、子どもたち自身で学習計画を立てたり、全校集会で学校行事やルール決めている。そして子どもたち自身が社会のできごとや課題との関わりについて体験を通して学ぶテーマ学習を行っている。これらの活動を通し、子どもたちの主体性、協力し行動する態度、多角的な視点で自ら考え判断することなどを育んでいる。

学校到着後、同校の辻正矩理事長、藤田美保校長の韓国語を交えたあたたかい歓迎のあいさつがあった。続いて、金井（クムジョン）高校のパク・ジョンス校長が答礼を述べ、記念品を贈呈した。続いて、小学部児童が韓国語で日本のお手玉遊びについて説明し、訪問団員一人ひとりがお手玉を体験した。また、オソオセヨチームが作った玉ねぎやブドウで染色したあずま袋のプレゼントがあり、うれしそうな表情でその場で使い始める韓国教職員の姿もあった。

その後、同校の ESD コーディネーターを務める高原麗奈教諭より学校説明、質疑応答の時間が設けられた。韓国教職員からは、「日本にはこのようなオルタナティブ・スクールが何校あるのか」、「児童生徒が何かを決定するときの決定方法について」、「地域社会との連携活動について」などの質問があがった。

その後、2 チームに分かれ、学校見学が行われた。校舎を回りながら学年合同のチーム、プロジェクト学習などについての説明を受けた。その後ことば・かずの授業で学習に励む子どもたちの姿を見学した。その中で、「韓国より教室が少し寒いように感じる」という声に、辻理事長から、「子どもたちが温度を決定している」との説明があり、訪問団員から感心の声があがった。中学部の見学では、実際に生徒が作成した ESD 関連論文を目にし、多様なテーマに訪

問団員も興味深く見つめていた。

学校見学後は、同校スタッフとともに昼食をとった。昼食時には同校に関すること、韓国の学校について、韓国ドラマについてなどさまざまな話題があがり、同校のスタッフと訪問団員の交流がなされた。昼食後、全員で記念撮影を行い、別れを惜しみながら一行は同校をあとにした。


学校見学の様子（NPO 法人箕面こどもの森学園）

◆ 大阪市立晴明丘小学校訪問

1 月 19 日（金）午前、2 つに分かれた A グループのうち、チームⅡは大阪市立晴明丘小学校を訪問した。同校は、1901 年東成群天王寺尋表常小学校として現在地に創立された。1947 年に大阪市立晴明丘小学校と改称し、現在に至る。「心豊かな丘の子ども～なかよく　正しく　たくましく～」を教育目標とし、2013 年にはユネスコスクールに認定され、平和や人権、環境、地域学習など様々な学習に取り組んでいる。

同校到着後、歓迎会場となる体育館に入ると、同校児童からの熱烈な歓迎を受け、アーチをくぐりながら入場をした。歓迎会では、まず同校の柴山雅由校長が歓迎のあいさつを述べ、続いて、訪問団紹介があった。同校を訪問したチームⅡの 16 名全員が自己紹介を行い、同校児童は熱心に耳を傾けた。続いて、同校児童による歓迎公演が行われ、韓国の歌である「アリラン」、「故郷の春」および日本の歌「ふるさと」が訪問団員に贈られた。その後、同校児童による学校紹介が行われた。次に訪問団を代表して馬松（マソン）中央小学校の校長であるチェ・ビョンサム氏が代表あいさつを行い、熱烈な歓迎に対する謝意を表した。続いて、ふたたび児童から合奏・合唱のプレゼントがあり、「世界が一つになるまで」、「花は咲く」、「情熱大陸」の 3 曲が行われた。最後に、全州新興（ジョンジュシンフン）高等学校の教頭であるイム・ヒジョン氏による伝統芸能パンソリの披露が行われ、イム・ヒジョン氏がパンソリの 1 つのフレーズを教えると児童らが積極的に参加し、即興によるパンソリ教室は大きな盛り上がりを見せた。歓迎会終了後、訪問団員は自然観察学習園を見学した。その後、ふたたび、体育館へ戻り、6 年生児童による晴明ソーランを鑑賞した。

休憩を挟み、授業見学・設備見学が行われ、校舎内をまわりながらさまざまな授業を見学した。その後、多目的室で柴山校長による学校説明が行われ、学校紹介映像を見ながら、入学式、広島での修学旅行、プール開き、林間学校、自然体験学習、晴明まつりなど同校の様々な取組みについて理解を深めた。続いて、質疑応答の時間が設けられ、訪問団員からは、「児童の書道の作品を掲示する理由について」、「キャリア教育について」、「土曜参観の内容について」、「授業日数について」など様々な質問があがった。

昼食の時間には、家庭科室で同校の給食

を体験した。その後、各学級での給食指導の様子を見学したことで、日本の食育への理解がさらに深まった。訪問団員は、児童が給食当番として配膳を行うということに特に驚きを示し、興味深くその様子を見学した。

昼食終了後、別れを惜しみながら、一行は同校をあとにした。


「アリラン」を歌う児童（大阪市立晴明丘小学校）

◆ 大阪府立松原高等学校訪問

同日午後、チームⅠ・Ⅱが合流し、Aグループ全員で大阪府立松原高等学校を訪問した。同校は、総合学科高校として、生徒1人ひとりが自らの課題に意欲関心をもって向き合い、参加・体験することを教育理念の1つとしている。また、総合学習やLHR などを通して、生徒同士が学び合う「ピアエデュケーション」の視点を大切にした人権教育を推進している。

学校到着後、同校の鹿原優子教諭の司会進行のもと歓迎セレモニーが行われた。会場には、訪問団員を歓迎するための立派な横断幕があり、また、各テーブルには同校生徒が作ったハングルのネームプレートが置かれていた。歓迎セレモニーでは、まず、同校の平野智之校長が歓迎のあいさつを述べ、訪問団からは代表として興徳(フンドク)高等学校の校長であるジョン・ダルフン氏が答礼を述べた。続いて、両氏による記念品交換が行われた。鹿原教諭による学校紹介では、総合学科の多様な科目、生徒自治会、学校行事、自主活動、最終学年での論文など同校の特色ある教育活動についての説明がなされた。

休憩を挟み、授業参観が行われた。授業参観は各訪問団員と松原高校の生徒がペアになって会話をしながら行われた。音楽、書道、絵本、介護、手話など総合学科ならではの様々な授業を見学した。また、1階の廊下に掲示されている行事写真についての説明も行われ、同校の様々な活動が紹介された。授業見学終了後には、ショートホームルーム見学の時間が持たれ、生徒が自主的に連絡などを行う様子を訪問団員は興味深く見学した。

その後、会議室に戻ると、意見交換会が行われ、「履修希望者に偏りが出た場合の対処法について」、「教員の数について」、「担任が2名いる理由について」、「担任の役割分担について」など多様な質問があがった。意見交換会の終わりに、訪問団を代表してグループ長のイ・ウヒョン氏が訪問の感想を述べると、平野校長からも訪問団へあたたかいメッセージが贈られた。最後に校舎を背景にして記念撮影を行い、別れを惜しみながら一行は同校をあとにした。


平野校長とジョン・ダルフン氏（大阪府立松原高等学校）

四天王寺見学

1月20日（土）午前、Aグループ一行は大阪天王寺区にある四天王寺を見学した。現地に着くと、大阪ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク加盟校の小学生から高校生までの児童生徒、各校の教職員、大学生ボランティアなどが訪問団を歓迎した。グループに分かれ四天王寺見学が行われ、学校・学年の異なる児童生徒が協力し合い、訪問団員を案内した。訪問団員が四天王寺や日本の寺院について児童生徒に質問をする場面もあれば、訪問団員が韓国の寺院について児童生徒に説明をする場面もあり、四天王寺見学を通して、韓国教職員と日本児童生徒の交流がなされた。五重塔、講堂、金堂、六時礼賛堂などを見学し、日本の歴史および寺院についての理解を深めた。



交流活動の様子（四天王寺）

◆ ESDワークショップ

1月20日（土）午後、大阪府立住吉高等学校の同窓会館である北畠会館にて、ESDワークショップが行われた。同ワークショップの冒頭では、大阪府立大学の手話サークル「アトム」による手話コーラス公演が行われた。サークルメンバーのレクチャーのもと、ワークショップに参加した児童生徒、訪問団員も手話の動作を覚え、実際に手話コーラスを体験する機会も設けられた。続いて、参加校の紹介があった。生徒代表が歓迎のあいさつを述べ、訪問団を代表して韓国教員大附属高等学校の校長であるイ・ジェテック氏が答礼を述べた。

大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークの伊井直比呂事務局長より、「ESDの実践について一緒に考え、一緒に未来をつくる時間にしたい」と趣旨の説明があり、続いて、大阪教育大学附属高等学校池田校舎の治部浩三教諭より同ネットワークのESD活動についての説明があった。説明終了後、「持続可能性を阻害する要因」をテーマに児童生徒によるプレゼンテーションが行われた。2つのチームのプレゼンテーションが終わると、グループごとにESDを阻害する要因について意見を出し合った。児童生徒と訪問団員は、討論をしながら、要因を分類し、模造紙にまとめた。話合いの時間が終わると、発表の時間が持たれた。各グループ、二手に分かれ、発表者は模造紙の周りに残り、それ以外は他のグループの発表を見学した。どのようにESDを阻害する要因を分類したか、またその理由について発表を行った。最後に、伊井事務局長より、活動を振返ってのことばと、締めくくりのあいさつがあり、ESDワークショップは幕を閉じた。



生徒による発表（ESDワークショップ）

◆ ホームビジット

同日午後、ESD ワークショップ終了後、日本の一般家庭を訪問するホームビジットの時間が持たれた。大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークでは、同ネットワークの加盟校教職員や卒業生がホストファミリーとなり、日本文化や一般家庭の様子のみならず、教職員同士がより率直に意見を交わし合うことのできる意義深い時間となった。北畠会館でホストファミリーとの対面式を行い、少し緊張した面持ちで各家庭へと向かったが、終了時間である同日 21 時になると、ホストファミリー・訪問団員ともに満面の笑顔でホテルに戻った。日本の家庭料理を食べたこと、大阪の市場に出かけたこと、着物を体験したことなどどれも訪問団員にとって新鮮な体験、忘れられない思い出となった。

B グループ：池田町教育委員会

麗水三一（ヨスサミル）中学校の校長イ・スンジョン氏をグループ長とする B グループは、1 月 18 日（木）から 20 日（土）までの 3 日間、岐阜県池田町を訪問した。同町教育委員会の協力により、小学校 1 校、中学校 1 校訪問に加え、岐阜城見学、温泉体験が実施された。

◆ 岐阜城訪問

1 月 18 日（木）午後、一行は岐阜城を訪問した。岐阜城は、標高 329m ある金華山の頂上にあり、現在築城されている城郭の中でも有数である。訪問団は、ロープウェーで山頂付近まで上がり、岐阜城の天守閣まで山道を歩いた。天守閣から眼下に広がる風景は、鵜飼で有名な長良川が広がり、また名古屋まで見渡せるほど晴れ渡っていた。訪問団は、各々で写真撮影などを楽しんだ。



天守閣から望む景色（岐阜城）

◆ 池田町教育委員会表敬訪問

同日午後、一行は B グループの受入れ機関である池田町教育委員会を表敬訪問した。同教育委員会のある池田町役場に到着すると、同教育委員会職員とご当地キャ

ラクターの「ちゃちゃまる」が横断幕を持って歓迎をした。

まず、はじめに池田町の岡崎和夫町長より歓迎のあいさつがあり、訪問団を代表して、江原道教育庁の統括指導主事のカン・ハンウォン氏が答礼を述べた。そして、両者による記念品の交換がされた。同町からは、ちゃちゃまるのペンやファイルなどが各訪問団員に用意された。

続いて、同教育委員会の水野愛実主事より、池田町の紹介および同教育委員会の概要説明が行われた。その後、質疑応答の時間では、「英語教育について」「特別支援学級の児童生徒数について」「特産品について児童生徒が学ぶ機会はあるのか」「同町の福祉教育についての具体的な事例について」など多くの質問が挙がった。

最後にちゃちゃまるも再登場し、記念撮影をして表敬訪問を終えた。



記念撮影の様子（池田町教育委員会表敬訪問）

◆ 池田町　歓迎夕食会

同日午後 6 時より、ニュー池田にて、池田町教育委員会主催の歓迎交流会が行われた。はじめに、池田町教育委員会の国枝磨須美教育長より歓迎のあいさつがあった。続いて、訪問団を代表して、グループ長のイ・スンジョン氏が答礼を述べ、両氏による記念品の交換がされた。そして、同教育委員会の野原祐治事務局長による乾杯の音頭で歓談が始まった。

歓迎交流会には、同教育委員会の職員および、翌日より訪問する池田町立温知小学校と池田町立池田中学校の校長や教頭、教員が出席し、訪問団と歓談の時間を楽しみ、交流を深めた。また、日本料理のおもてなしに訪問団も大いに喜んだ。


乾杯の様子（ニュー池田）

◆ 池田町立温知小学校訪問

1 月 19 日（金）、一行は池田町立温知小学校を訪問した。同校は、開校 144 周年を迎える歴史ある小学校であるが、故事成語の温故知新から名づけられたことから、どんなに時代が進んでも、学問する心の扉をたたく大切な心構えが込められている。

同校到着後、まず同校の仲井智一校長より、当日の日程について説明があった。訪問団は、全校児童が待つ体育館へ案内された。体育館に入ると、全校児童が拍手で訪問団を迎えた。体育館で行われた歓迎セレモニーでは、はじめに仲井校長より歓迎のあいさつがあり、続いて、訪問団を代表してソウル梨泰院（イテウォン）小学校の校

長キム・ヨンチョル氏が答礼を述べた。そして、両氏による記念品交換が行われた。続いて、同校の林英樹教頭より学校紹介がされた。紹介の中には、同校の児童向けに韓国語を学ぶスライドも盛り込まれ、児童からの力いっぱいの韓国語によるあいさつに訪問団も心が和んだ。そして、児童からの質問の時間には、たくさんの児童の手を挙がった。そして、全校児童による校歌斉唱で歓迎セレモニーが幕を閉じた。

続いて、訪問団は2グループに分かれ授業見学をした。校長室や保健室、図書館、コンピューター室、ランチルームなどの施設や、国語や音楽、社会、図工の授業などを見学した。その後、質疑応答の時間では、「教員の授業以外の業務について」、「校舎の改築における教職員の意見の反映の有無」、「担任と副担任の違い」、「教員の長期休暇について」、「児童同士の争いの対処法」などの質問があがった。また、「同校の児童が、落ち着きのある態度に感心した」といった感想も述べられた。最後に校舎の前で記念撮影をして、同校を後にした。


学校紹介の様子（池田町立温知小学校）

◆ 池田町立池田中学校訪問

同日午後、一行は池田町立池田中学校を訪問した。同校は、2017 年にユネスコスクールに加盟し、ESD 活動が盛んである。12 月に実施される全校生徒による地域清掃は 30 年の歴史を有し、地域奉仕活動への関心も高い。また、運動系の部活動が盛んで地区大会や全国大会への参加率が高いのが特徴である。

まず、訪問団は家庭科室に案内され、同校の吉田秀慈校長の韓国語による歓迎のあいさつがあった。続いて、給食交流のため訪問団は同校の生徒に迎えられ各教室へ向かった。訪問団は、簡単な英語でコミュニケーションをとりながら、同校の生徒と交流を深めた。

続いて、韓国教職員による文化授業と授業見学が行われた。中学1年生のクラスで行われた韓国教職員による文化授業では、「訓民正音」を紹介し、各生徒に自分の名前をハングルで書けるように教えたり、シルム（韓国相撲）を英語で教えたり、実際にゲームをしたりしながら生徒たちは楽しく学んだ。

次に、体育館にて1年生による歓迎セレモニーが催された。訪問団は、民族衣装に身を包み、中学1年生に迎えられた。まず、はじめに吉田校長より歓迎のあいさつがあり、訪問団を代表して為美（ウィミ）中学校の校長ジョ・スンジュン氏が答礼を述べた。続いて、中学1年生より合唱のプレゼントがあり、それに対して訪問団からは、朝鮮民謡の「アリラン」と扇子の舞が披露された。そして最後に質疑応答の時間が設けられ、「日本の印象はどうか」、「韓国のおすすめのスポットはどこか」という生徒

からの質問に、韓国教職員は笑顔で回答した。

続いて、家庭科室に戻った訪問団は3グループに分かれ、意見交換を行った。「子どもに身につけさせたい力」、「進学のための活動の有無」、「ユネスコ協会との連携の有無」などの質問が挙がり、また生徒からは、「日本と韓国の共通点について」、「韓国でのESD活動について」など多様な質問があがった。

最後に、校舎前で記念撮影し訪問を終了した。


歓迎セレモニーで生徒からの質問に答える韓国教職員（池田町立池田中学校）

◆ 部活動見学

1月20日（土）午前、Bグループ一行は、池田町立池田中学校を再訪し、部活動の見学をした。同校の蟹江康弘教頭の案内で、吹奏楽部、ペン習字部、卓球部、サッカー部、野球部、ソフトボール部など、顧問の教員と一緒に練習している様子をみることができた。訪問団の中には、同校の生徒と一緒に卓球や野球をプレーしながら交流を深める韓国教職員もいた。そして一行は家庭科室に戻り、報告会の成果発表に向けて情報共有会を行った。


ペン習字部を見学する様子（池田町立池田中学校）

◆ 温泉体験（池田温泉）

同日午後、一行は池田温泉へ向かった。同温泉は、池田町が運営する温泉施設で、泉質がつるつるしているのが特徴であり、肌を滑らかにする美肌効果が期待されることから「美人の湯」と呼ばれている。

池田温泉にて昼食をとったのち、訪問団は各々で温泉を楽しみ、旅の疲れを癒した。また、隣接する道の駅で、池田町の特産の揖斐茶などをお土産に買うなどして満喫した。



池田温泉に向かう韓国教職員

◆ ホームビジット

温泉体験を終えた一行は、池田町立池田中学校に戻り、ホームビジットをするホストファミリーと対面した。各家庭に2名～3名で訪問し、日本の生活に触れる機会と

なった。ホームビジットを終えて戻ってきた韓国教職員の表情はにこやかで、ホストファミリーも別れを惜しんで、バスが出発するまでお見送りをしてくれる家庭もあった。


ホストファミリー宅にてすき焼きを楽しむ韓国教職員

C グループ：愛知

源花（ウォンファ）女子高等学校校長のイ・ウック氏をグループ長とするCグループ34名は1月18日(木)から20日(土)までの3日間、愛知県を訪問した。愛知県教育委員会協力のもと、特別支援学校1校、高等学校1校のほか、名古屋城、徳川美術館・徳川園を訪問した。

◆愛知県教育委員会表敬訪問

訪問団は1月18日（木）の午後、愛知県教育委員会表敬訪問した。まず、平松直巳教育長より歓迎のあいさつが述べられた。訪問団側からは、金海（キムヘ）外国語高等学校校長イム・グォンソブ氏が答礼を述べた。そして、平松教育長と海江（ヘガン）高等学校校長キム・ボンリョン氏が記念品の交換を行い、記念写真の撮影が行われた。

その後、韓国教職員と教育委員会との意見交換会が行われた。あらかじめ韓国側から出されていた質問事項に対する回答に加え、当日は「私立学校を管轄する組織」、「日本での人口減少に伴う学校数の維持や学校の統廃合の現状」、「学校に来られなくなる生徒（韓国では“離脱少年”と呼ばれる）の管理」についても質問も寄せられた。


記念品交換の様子
（左：キム・ボンリョン氏、右：平松教育長）

◆ 愛知県歓迎夕食会

同日の午後6時半より、アイリス愛知にて愛知県教育委員会主催による懇談会が行われた。各テーブルには訪問団のほか、教育委員会の職員や翌日の訪問校の校長や教頭が同席した。

愛知県教育委員会を代表して永井勇一事務局次長があいさつを述べ、訪問団からはグループ長であるイ・ウック氏が感謝の言葉を述べた。

続いて、韓国教職員の有志により、日本でも有名な韓国の歌手キム・ヨンジャの歌に合わせて歌と踊りが披露された。軽快な音楽はテンポ良いリズムを刻み、会場が大いに盛り上がった。

学習教育部の荻原哲哉部長により乾杯が行われ、楽しい歓談の時間が始まった。会が進み、場が和んだところで、乾杯の音頭をとった荻原部長が韓国語で歌を2曲披露し、訪問団の心を鷲掴みにした。後日、訪問団長のキム・グァンホ団長がこのことを振り返り、韓国側も日本語で何かを披露することを検討しなくてはいけないと、情熱に火を灯していた。


訪問団による出し物（アイリス愛知）

◆ 愛知県立みあい特別支援学校訪問

1月19日（金）午前、訪問団は愛知県立みあい特別支援学校を訪問した。同校は、2009年4月に知的障害教育の最前線を目指し開校した。児童生徒の約60%が知的障害を伴う自閉症スペクトラムであることへの対応として、視覚支援、スケジュール提示、教室の構造化など、障害特性に応じた学習支援を行っている。また、ICT先進校として積極的にタブレット端末を活用し、学習支援・コミュニケーション支援、余暇での利用支援を行っており、高等部全員が個人所有のタブレット端末を学習に使用している。ユネスコスクールとしてのテーマは「共生社会の実現」である。

到着後まもなく行われた歓迎セレモニーでは、同校の志賀則彦校長による歓迎のあいさつが述べられ、訪問団を代表して、大邱世明（テグセミョン）学校の校長であるパク・チョルジン氏が答礼を述べた。記念品贈呈は志賀校長と蔚山幸福（ウルサンヘンボク）学校の校長であるキム・ジョンジャ氏によって行われた。

続いて、同校の白濱菜穂子教頭より学校説明が行われた。質疑応答の時間では、「春休みや夏休みなど休みの期間における生徒に対するサポート」、「職業教育の実施有無」「小学部の教科学習決定」に関する質問があがった。

次に授業や校内の様子を見学した。職員室では対話型ロボットに対面した。興味を示した韓国教職員はロボットと言葉を交わしていた。そのほか、校内では避難用の滑り台、飛び降りを防ぐための窓、飛び出しを防ぐための建物構造、作業場での事故防止のための配慮なども紹介された。授業

見学では作業学習を主に見学した。ポリエステルと綿を、糸をよるように分ける、またタブレット端末で残りの作業時間と次の作業内容を確認しながら車のナビゲーションの素材を色とパーツに分ける、重さによってビーズを分ける、牛乳パックのベルマークを分けるといったさまざまな作業を視察した。集中力と根気を要する内容であるが、訪問団が教室に姿を現すと、挨拶の声が聞こえ、訪問団を笑顔で迎える生徒と韓国教職員が互いに交流する場面も見られた。授業見学では音楽を奏でる生徒たちの様子を見て胸がいっぱいになり涙ぐむ参加者もいた。

半日という短い滞在時間であったが、学校全体のあたたかいおもてなしに感謝しながら、訪問団は学校をあとにした。



対話型ロボット“みあいペパ太郎”と言葉を交わす韓国教職員（愛知県立みあい特別支援学校）

◆ 愛知県立千種高等学校訪問

1 月 19 日（金）午後、訪問団はユネスコスクールである愛知県立千種高等学校を訪問した。同校は①自主的、創造的な生活態度を身につけ積極的に行動する、②道徳的心情を深め、健康で明朗でたくましく生きる、③人間相互の信頼と協調につとめ、集団の中で個人として責任ある行動をする、④豊かな教養と情操を養い、国際的視野を広めうるおいのある生活をする 4 つの軸を教育目標に、各学年普通科 7 クラス、国際教養科 2 クラスの生徒が、自主的に学ぶ校風のもと、互いに切磋琢磨しながら、真摯に学習に取り組んでいる。学校祭、健脚会、スポーツ大会などの数々の行事があり、生徒自身の手で企画・運営されている。

到着後、まず 2 つのグループに分かれ、授業参観が行われた。同校の中川貢教頭および朽名力教頭が案内した。物理、英語のコミュニケーション、数学、英語表現（ライティング）、古典、地理など様々な授業を見学した。物理の授業では教師がロープの一端を黒板近くに固定し、もう一端を動かすことで単発の波や連続波をつくり、その様子を生徒に見せながら説明していた。創意工夫をこらした指導方法に韓国教職員の注目が集まっていた。

その後、会議室で歓迎式が行われた。まず、小島伸之校長から歓迎のあいさつがあり、訪問団を代表して大田老隠（テジョンノウン）高等学校校長のキム・スンテ氏が答礼を述べた。その後、小島校長と陽青（ヤンチョン）高等学校校長のキム・ウンシック氏による記念品贈呈が行われた。

ビデオを視聴しながらの学校紹介、教職員との意見交換会と続いた。訪問団からは、「授業妨害をしたり授業を聴かない生徒の対応」、「ユネスコスクールとして教育委員会からの支援の有無」、「部活動を奨励するために学校側で行っている指導」、「授業以外の業務で苦労している点や改善方法」、「生徒の習熟度や達成度の判断基準」、「普通科と国際教養科の学力差や海外大学への進学」などの質問があがった。

その後、施設見学・部活動見学が行われ、

ダンス部の見学では参加者も拍手しながら楽しみ、剣道部見学では、発声しながらの練習風景に訪問団は引き込まれていた。また、運動場で行われるテニス、サッカー、ハンドボール、野球部などを見学し、「指導する先生がいない間も生徒たちが自分たちでルールを守りながら、部活をしている姿に驚いた」というような感想が聞かれた。

今回の訪問の前には、都合によりホームビジットでの受入れが叶わなかった生徒から韓国側に質問が寄せられており、金海（キメ）外国語高等学校校長のイム・グォンソブ氏が文書で答えるというやりとりがあり、このような方法による交流も実現した。


授業見学をする韓国教職員（愛知県立千種高等学校）

◆ ホームビジット

1 月 19 日（金）の夕方、愛知県立千種高等学校での一連の訪問予定を終了し、訪問団が教員間の意見交換が行われた会議室に戻ると、その日夕方以降に韓国教職員を受入れることになっている生徒や保護者が待っていた。受入家庭と韓国教職員の組み合わせが伝えられ、対面式が行われた。生徒と韓国教職員は呼ばれた順に会議室を出て、それぞれの家庭に向かった。短い時間であったが、各家庭の保護者などを含めホテルに送り届けられた韓国教職員の表情は、いきいきと笑顔にあふれており、内容の濃い時間を過ごしたことがよく表れていた。各家庭では手作りの料理がもてなされ、一緒に料理の準備を楽しんだ教職員もいたそうだ。韓国のドラマやアイドル、日本の小説について話が盛り上がったり、将来について語り合った家庭もあったという。どの韓国教職員もホームビジットでの時間を有意義に過ごせたことを口々に述べていた。

◆ 名古屋城見学

1 月 20 日（土）午前、文化施設の視察として名古屋城を見学した。近世城郭御殿の最高傑作といわれた本丸御殿から見学は始まった。柱 1 本にしても、車を 1 台購入できるほどの高価なものが使われており、最上級の材料ばかりで建築されていることが説明された。また、襖に描かれた絵などは当時と同じ素材や技法が使われており、緻密な作業によって復元されているということであった。天守閣見学では、最上階まで行き、町を一望した。階を下ると、大きな金のシャチホコがあり、撮影スポットであったが、そこに跨って記念撮影を楽しむ教職員もいた。



天守閣を背景に記念撮影（名古屋城）

◆ 徳川園・徳川美術館見学

同日午後、一行は徳川園・徳川美術館を訪問した。初めに美術館の四辻秀紀学芸部長より、館の歴史や開館までの経緯、展示物に関して 15 分ほど説明があった。その後は集合時間まで、各々自由に館内の見学および外の庭園を散策した。短い時間ではあったが、落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりとした時間を過ごせたことは、気分が穏やかになったということであった。



武家屋敷の面影を伝える「黒門」の前で記念撮影
（徳川園）

３.全体プログラム（京都府）

プログラム 6 日目の 1 月 21 日（日）、A・B・C の各グループはそれぞれ滞在していた地域から京都に向かった。A グループは、京都への道中、大阪城を見学した。大阪城では、堀や重要文化財の大手門、桜門を通りながら天守閣に向かい、天守閣では展示された甲冑や錦絵などの歴史資料や原寸大で復元された黄金の茶室、各時代の大阪城本丸復元模型などを見学し、日本の歴史・文化に対する理解を深めた。京都に到着した 3 つのグループは昼食会場にて合流し、昼食後、TKP 京都烏丸カンファレンスセンター3 階のホール A にて、報告会が行われた。

報告会（第 6 日）

報告会には訪問団のほか、国際連合大学サステイナビリティ高等研究所の古田知美事務局長、地域受入プログラムの受入機関である大阪ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク、池田町教育委員会（岐阜県）、愛知県教育委員会の関係者、過去の「韓国政府日本教職員招へいプログラム」で訪韓した日本教職員などが来賓として出席した。

報告会では、各グループよりプログラムの感想、成果等についての発表が行われた。各グループの報告は以下の通りである。

－A グループ－

A グループを代表し、仁川市教育庁指導主事のキム・ギョンヒ氏が発表を行った。発表の内容は以下の通りである。（報告会

当日に発表時間の制限により省略された部分も発表原稿から翻訳・抜粋を行い、以下に掲載する）

- 麹町学園女子中学校・高等学校訪問は、空間の使い方の重要性について考えるきっかけとなった。同校では、空間の使い方をとても工夫しており、生徒たちがより開けた思想や視野をもてるようにと大きなガラス窓にしているのも印象的だった。また、ユネスコスクールの活動の一環として行われるプレゼンテーションも興味深かった。

  高校 2 年生を対象とした韓国教職員による文化授業では、授業で教えた韓国の伝統芸能を日本人生徒たちが発表する姿に感動した。また朝鮮の庶民を描いた風俗画を鑑賞したクラスでは、生徒の豊かな想像力がとても印象的だった。
- 大阪教育大学附属高等学校池田校舎は、安全対策として、教室で何が起こっているかを把握できるようにガラスを多用していること、不審者を取り押さえるための道具が各階に常備されていること、教職員の訓練を継続的に行っていること、学校のところどころに非常ベルを設置していることなど、緊急事態発生時に迅速に対応するためのシステムが整っていた。また、高校 1、2 年生を対象に年間 30 時間も ESD の授業を行っていることにも驚いた。自分たちでテーマを決定し、調査や討論を行い、解決方法まで考える姿がとても印象的だった。
- NPO 法人箕面こどもの森学園では、小学部の子どもたちが、日本の伝統的な遊びについて韓国語で説明してくれたこと、自分たちで染色したあずま袋をプレゼントしてくれたことがとても嬉しかった。また、子どもたち自身が学習内容を決定し、振り返るの時間を持つことや、学年が混ざった家族のようなグループで会議やプロジェクトを進めるというのがとても印象的だった。中学部の ESD 関連の論文のプロジェクトも印象的だった。
- 大阪市立清明丘小学校では、全校児童が集まり、「アリラン」と「故郷の春」を歌って歓迎してくれた。また、韓国教職員がパンソリを教えると同校児童は我先にと歌おうとし、終始和気藹々とした雰囲気だった。また児童が食べている給食をいただくことができ、良い経験ができた。
- 大阪府立松原高等学校では、160 もの選択教育課程を通して生徒が進路を決定できるような教育活動が印象深かった。複数科目を担当する教員もおり、生徒に多様な選択を与えようという情熱を感じた。また、学級ごとに担任が 2 名いることも驚いた。ESD、平和教育に力を入れており、広島被爆者支援活動、国際交流、障害体験活動などの好事例について学んだ。手話の授業を参観したときに、生徒が発表したエッセイがとても感動的だった。
- 四天王寺見学ではさまざまな学校から来た児童生徒たちとひとつのグループになって見学した。3 万坪もの境内を全部見ることはできなかったが寺院内を日本の児童生徒と一緒に見て回る貴重な時間となった。

- ESD ワークショップ
  ESD ワークショップでは生徒によるプレゼンテーションがあり、携帯電話を使う時に起こる問題や授業態度に関する問題を寸劇で発表していたのが印象的だった。また、グループごとに ESD についてディスカッションし分類し、相互に質問するという活動をした。生徒たちの自分から実践することで周りを変えることができるという言葉もとても印象深かった。
- 総括すると、まず、日本のユネスコスクール訪問を通して基本的な生活教育および安全教育が徹底して行われているという事を改めて感じた。次に、学校も家庭も空間を効率的に活用している点も印象的だった。3 つ目に未来の社会に備えた ICT 教育への熱心なサポートも印象深かった。そしてお客様をもてなす日本の文化も体験することができた。このプログラムの関係者の皆様に心より感謝したい。

－B グループ－

次に B グループを代表し、海美(ヘミ)中学校の教諭キム・ジョンミン氏が発表を行った。B グループは、発表内容は以下の通りである。

- 都市大学等々力中学校･高等学校
  毎朝、評価がありそれを通過できないと部活動に参加せず、残って勉強をするというのが印象的だった。ノブレスオブリージュという校訓のもとに、グローバルリーダーの育成に力を入れている。グローバルリーダーを育成を掲げており、学校間交流を多く実施していることも印象に残った。
- 池田町教育委員会
  日本と韓国の教育行政の違いに関する質問が多くあがった。また、韓国とは異なり自分の暮らす地域を学ぶ教科書があった。地域との連携活動を行うにあたり、その地域をよく知らなければならないということを再確認した。
- 池田町立温知小学校
  池田町立温知小学校の児童は地域の茶畑で茶葉を収穫する活動を行っており、池田町民はホールスクールアプローチを実践していたのが印象的だった。また、池田町の ESD は地域の福祉の実現に重点を置いていることがわかった。町が教育共同体となり、児童が地域のお年寄りにお弁当を届けるなどのボランティア活動が行われている。また、me-too ランチの会という、特別支援学校の児童の地域社会還元をサポートするプログラムが印象的だった。学校の壁にボランティア活動の報告書を掲示している。
- 池田町立池田中学校（昼食）
  ゴミの分別は学校だけでなく日本全体で行き届いており、日常化されていると感じた。牛乳瓶の蓋まで分別することも驚いたが、ある中学生の「牛乳がこぼれると汚くなるから」と牛乳瓶の蓋を拭いてから捨てる姿にさらに驚くとともに感心した。
- ホームビジット
  ホストファミリーの皆さんに深い感謝の意を表したい。多くの事を感じた素晴らしい夜であった。

－C グループ－

C グループを代表し、慶尚南道教育庁の統括指導主事であるチェ・ムンハグ氏が発表を行った。発表内容は以下の通りである。

- 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校
  創立 35 年目の中高一貫校で全国でも屈指の名門私立学校であり、教育目標は「自調自考の力を伸ばす」こと。高校 2 年生の 1 学期後から大学入試準備を始め、大学が求める人材を育成している。文化交流授業は 3 グループに分かれて行われた。A グループは扇子に自分の名前をハングルで書くこと、B グループは韓国の伝統的な遊びであるチェギチャギ、ユンノリ体験、C グループは韓国式のめんこ遊びを行った。
- 愛知県教育委員会
  愛知県教育委員会の政策および活動内容紹介があり、ユネスコ活動の目的と児童生徒が達成目標、特別支援学校、ESD などについての質疑応答があった。
- 愛知県立みあい特別支援学校
  2009 年 4 月に知的障害を対象に特別支援学校として開校した。ICT 推進教育学校としてタブレット PC 活用し生活支援を行っている。作業教育を重視している。またロボット授業（パナソニック教育財団が支援）を通して情緒教育支援をしている。
  また、教育課程に関して校長の自律性が保障されている。
- 愛知県立千種高等学校
  1963 年に設立され、普通科 7 クラス、国際教養科 2 クラス構成である。生徒会、部活動などが活発である。
- ホームビジット
  愛知県立千種高等学校の生徒の家庭に招待された。
- 全体を通しての感想
  ユネスコスクールの本質的な価値（国際理解、環境教育など）を教育課程に忠実に反映している点が印象的だった。3 つの学校の教育哲学がすべて自立と共生を強調していた。学校を選ぶ権利や、学校側が生を選ぶ権利を保障することで、生徒の幸せを追求しているように感じられた。授業参観、ホームビジットなどを通して、訪問団にありのままの姿を見せてくれたことに感動した。教育共同体構成員（学校-教師-家庭）間の信頼および基本に忠実な態度を確認できた。日本の教育現場は安定していると感じ、児童生徒の学校生活の満足度が高いように思えた。

各グループの発表後、大阪ユネスコスクールネットワークの伊井直比呂事務局長、池田町教育委員会の水野愛美主事、愛知県教育委員会の彦坂永利子課長補佐よりそれぞれ感想が述べられた。質疑応答では日本の教職員より「日本の児童生徒の良さはどういうところか。またどんな課題があると思うか」との質問があがった。その後、ACCU 人物交流部の進藤由美部長からのメッセージが読み上げられ、続いて、国際連合大学の古田事務局長から各グループ代表に記念品が贈呈された。最後に、古田事務局長、キム・グァンホ団長が閉会のあいさつを述べ、報告会は幕を閉じた。

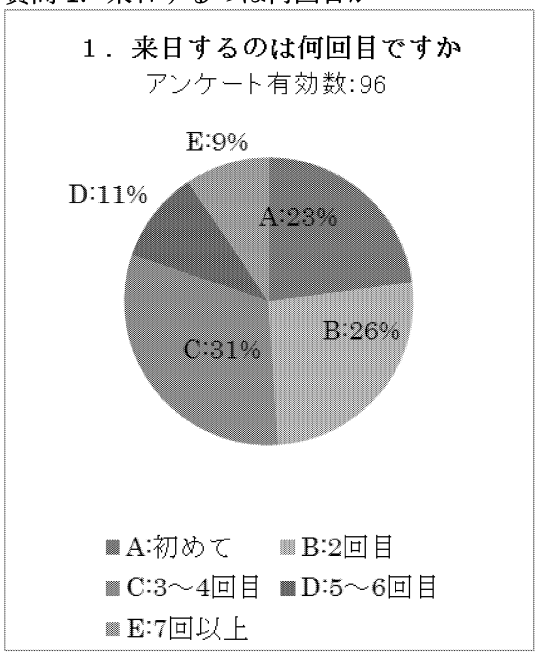
第II章

参加者アンケート

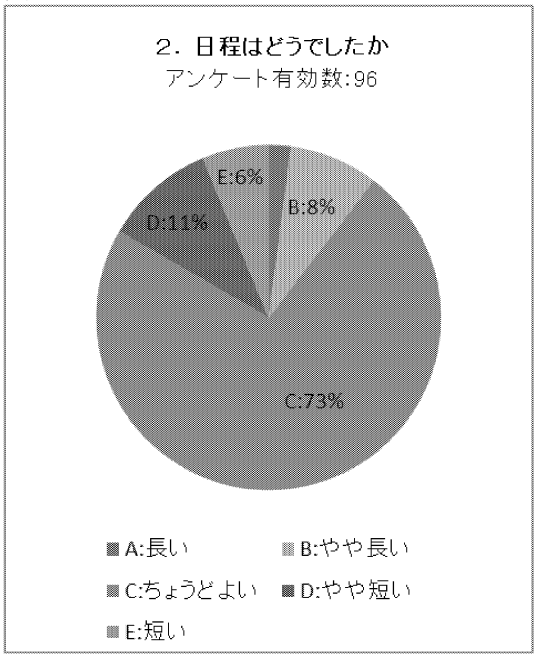
参加者アンケート

＊原文は韓国語。ACCU 翻訳。

質問 1. 来日するのは何回目か



質問 2. 今回の日程はどうだったか



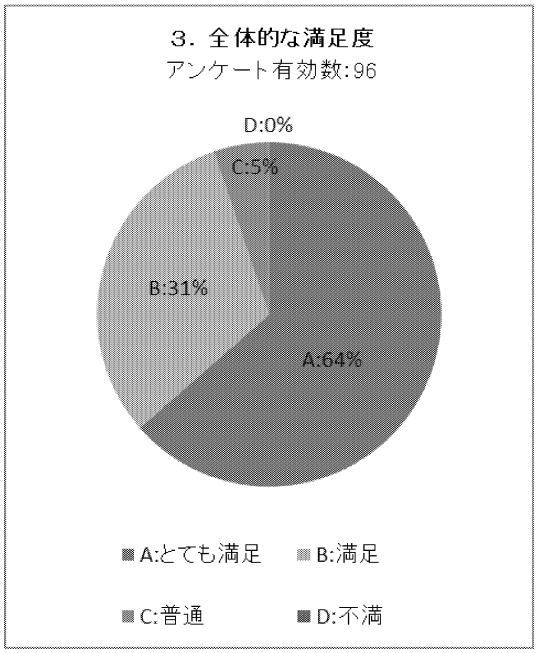
【主な意見】

A-14　ペク・エスド（やや長い）
7 日間の日程はすこし長かったが、とても充実した時間だった。

B-24　イ・スオック（ちょうどよい）
多様な体験ができた。体力面でもちょうどよい日程だった。

C-26　ジョ・ジョンイ（やや短い）
最初は長いと思ったが、思いのほか、時間がはやく過ぎ、もう少し学校訪問やホームビジットが長ければよかったと思った。

質問 3. 全体的な満足度



【主な意見】

A-01　キム・ギョンヒ（満足）
多くの学校を訪問し、日本のユネスコスクールについての理解が深まった。文化体験は複数行くより一箇所で十分な時間をとってほしい。

B-32　チョイ・ヨンウン（とても満足）
両国の教育課程、児童生徒や教職員の学校での姿、学校が属す地域社会の特徴を知ることができ、とても有意義な時間だった。

C-29　チェ・ボギョン（普通）
学校訪問を楽しみにしていたが、訪問校数が

少なく、各校での滞在時間も短かったように感じた。もっとたくさんのことを質問したかった。

質問 4. 参加目的は何か

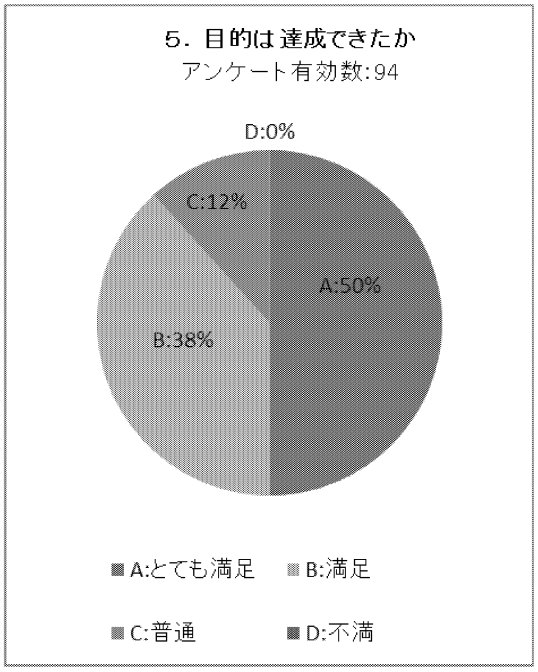
【主な意見】

A-25　イム・ヒジョン
ユネスコスクール訪問や大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークの活動および様々なプログラムで学んだことを、自分の学校で生かすこと。

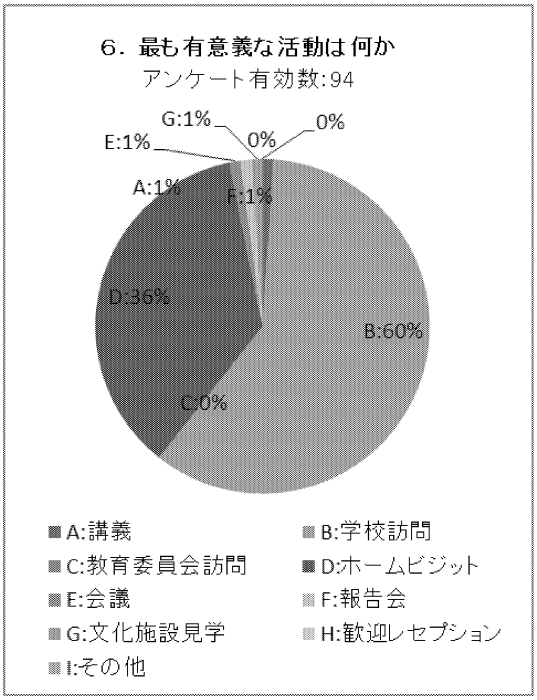
B-17　シム・ジュヨン
日本の教育現場を直接目にし、児童生徒や教職員と交流することで、今後の韓国の教育における変化の方向性を模索すること。また、日本の教育の長所を知り、これらを韓国の教育現場に生かすこと。

C-3　キム・サンウ
日本文化および教育制度に対する理解を深めることや、特別支援学校の現状と教育環境を視察すること。

質問 5. 目的は達成できたか



質問 6. 最も有意義な活動は何か



【主な意見】

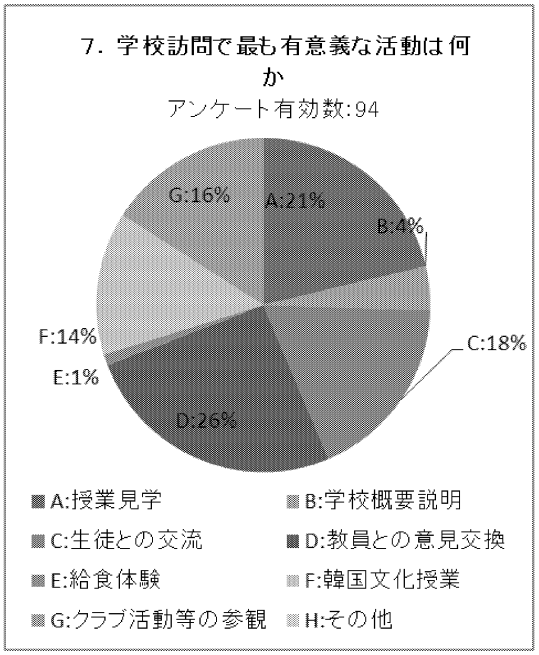
A-16　ビョン・ウンジュ（ホームビジット）
教職員同士の交流だったので共感する部分が多く、学校訪問ではできなかった細かい質問や日本の文化についてより深く知ることができた。

B-05　カン・ハンウォン（学校訪問）
秩序ある児童生徒の姿、清潔で整理整頓が行き届いた学校施設に感動した。また、充実した教育内容が印象的だった。

B-11　キム・ヘオン（学校訪問）
観光地を訪れる機会はいくらでもあるが、学校を訪問する機会はあまりない。日本の学校の良いところをたくさん学ぶことができたため、韓国へ帰ってその経験を生かしたい。

C-09　キム・ジョンジャ（学校訪問）
公立高校、私立中高一貫校、特別支援学校を訪問することで、日本の教育についての理解が深まった。授業は教師を中心に行われるが、自主的に学ぶ雰囲気をつくっていた。1 学級の生徒数は韓国より多いが、生徒の授業態度は韓国より熱心だった。特別支援学校の教育過程が体系的および現実的で、自立に焦点が置かれ、作業教育が盛んに行われていると感じた。

質問 7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か



【主な意見】

A-05　キム・ヨンハン（生徒との交流）
韓国語で話しかけてくれ、歓迎してくれたことに感謝したい。

A-21　イ・ヒョンジョン（学校概要説明）
学校の伝統や独自の教育活動について学び、さまざまなことを知ることができた。

B-02　キム・グァンソク（授業見学）
授業見学を通して、学校教育についての理解が深まった。

B-04　キム・ミスック（教員との意見交流）
日本の教育活動についてより具体的に知ることができた。

C-04　キム・ソックス（教員との意見交換）
教職員の率直で多様な意見を聞くことができてよかった。しかし、時間に限りがあり、質問を十分にできなかった。

質問 8. 他にどのようなプログラムがあったらよいか

【主な意見】

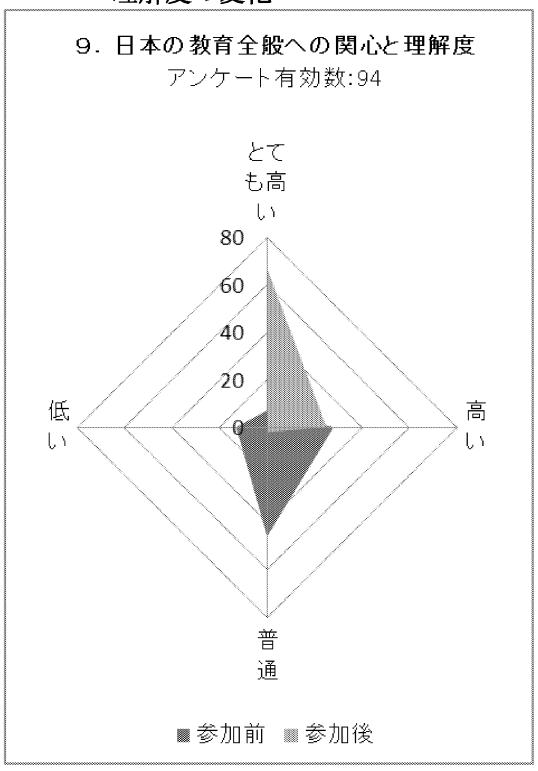
A-30　ハ・スンヨン
教職員の場合、情報共有や課題点について継続的に意見交換できるプログラムがあれば、より深い交流ができると思う。

B-03　キム・キスン
さまざまな機関を訪問するより、授業参観や文化授業などひとつの学校に集中し、より深い意見交換をすれば交流の深さが増すと思う。

B-05　キム・ヨンスック
日韓の教職員間でのスポーツ交流を行えば、交流がさらに深まると思う。

C-05　キム・ソヒョン
担当科目などで分かれてグループ別に意見交換する時間がもっとあればよかった。日本の教育制度についての事前の学習が必要だと思った。関連資料を事前に受け取り、日本に来る前に勉強してくれば、より実質的で深みのある質問と回答ができると思う。

質問 9. 日本の教育全般への関心と理解度の変化



【主な意見】

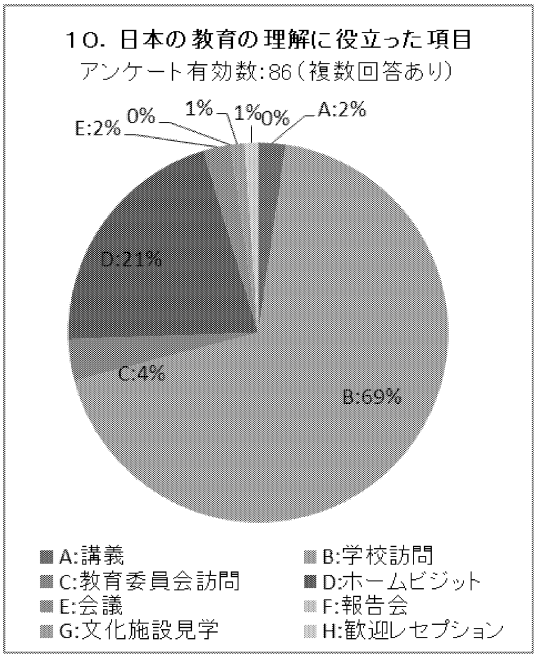
A-08　キム・ハンネ（高い→とても高い）
日本は地理的にも近い国で文化的にも似ている部分が多く関心が高かったが、今回のプログラムを通して日本の教育について知ることができ、もっと知りたいと思った。

B-10　キム・ヒョンジョン（普通→とても高い）
日本についてよく知らなかったが、プログラムを通して日本の教育に対して興味を持った。

B-22　ユン・シジュン（普通→とても高い）
日本を全身で体験することで、具体的に知ることができ、関心がさらに高まった。

C-24　ジョン・ビョンドゥ（普通→高い）
日本のすべての学校を見たわけではないが、日本の優秀な人材の育成について学ぶことができた。生徒が自主的に部活動を行えるよう信頼し、サポートする教職員たちの姿が印象的だった。

質問 10. 日本の教育の理解に役立った項目



【主な意見】

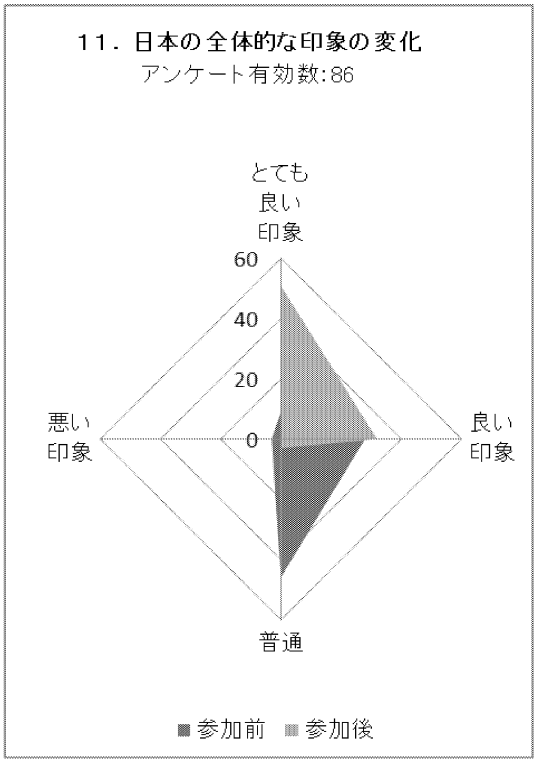
A-18　ユ・ジンテ（ホームビジット）
日本の教職員と日本や韓国の教育について討論することができた。知りたかったことが分かり、両国の課題についても改善方法を話し合えて良かった。

B-31　ジョ・スンギュン（学校訪問）
学校施設は現在の韓国のものより古い部分もあったが、その中では第 4 次産業革命に対応した教育が行われており、施設を効率的に使いながら良い教育を行っていると思った。

C-15　イ・ゴンヒ（ホームビジット）
訪問家庭の子どもから学校生活について率直で興味深い話を聞くことができた。

C-25　ジョン・ジョンラン（学校訪問）
学校訪問は 2 日間だけだったが、学校現場を直接訪問し韓国と比較することができた。学校の特徴を生かしながら献身的に教育活動に臨む教職員の姿が印象的だった。

質問 11. 日本の全体的な印象の変化



【主な意見】

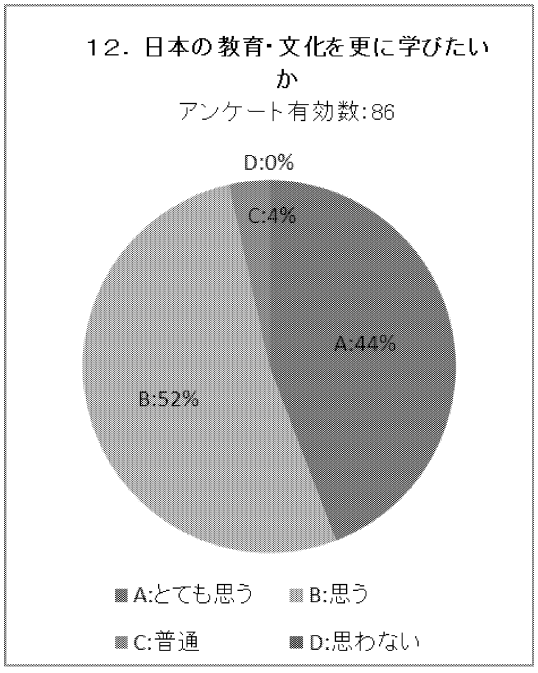
A-02　キム・グァンレ（普通→とても良い）
日本に対する印象がとても肯定的なものに変わった。基本的な生活態度、互いを思いやる意識などが印象深かった。

B-17　シム・ジュヨン（悪い印象→とても良い印象）
日本人に対し多少否定的な感情があったが、プログラムを通してとても肯定的なものへと変わった。日本人が、暖かく美しい明るい心を持っていることがわかった。

B-21　ユン・ミスック（普通→良い）
韓国では、授業に積極的に参加しようとしない児童生徒も多くおり、日本の生徒の積極的な態度がとても印象的だった。しかし、日本の児童生徒の一人ひとりの個性が尊重されていないとも思った。

C-34　キム・グァンホ（良い→とても良い）
日本はとても清潔で整理整頓が行き届いていると感じた。また、日本人は準備を徹底的に行い、責任感が強く親切であると感じた。社会システムが整っており安全な国だと思った。

質問 12. 日本の教育・文化を更に学びたいか



【主な意見】

A-04　キム・ヨンヒョン（とても思う）
ESD を実践する姿や学校のトイレ、廊下にゴミが無い点を見習いたい。また、基本的な生活教育、安全教育についてもっと知りたい。

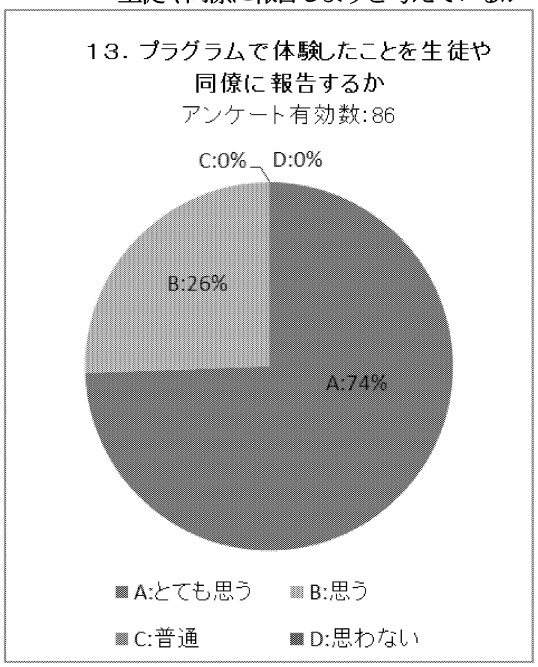
A-13　パク・ジョンス（思う）
総合的学習の時間と生徒の成長との関連性をもっと知りたい。

B-06　キム・ヨンチョル（思う）
日本は先進国であり、隣国であり、また成長し続ける国であるため、韓国の教育の発展のためにこれからも関心を持たなければならないと思った。

B-08　キム・ジョンミン（とても思う）
日本との違いから、韓国の教育のバランスや方針を導きだせる可能性を感じた。

C-20　イ・ジョンア（とても思う）
日本の教育や文化は韓国と似ている部分が多いと感じたが、今回のプログラムを通して得られた知識は断片的なものかもしれないので、より深く学び理解したいと思った。

質問 13.　プログラムで体験したことを生徒や同僚に報告しようと考えているか



【主な意見】

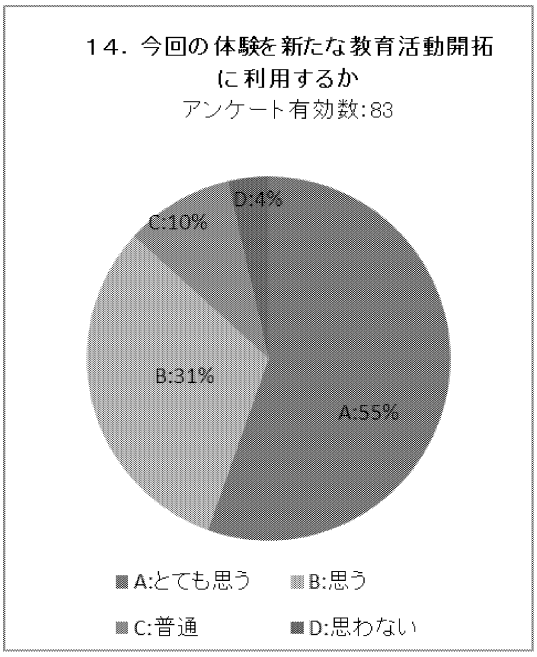
A-23　イム・ヨンヒ（とても思う）
教室での日本の児童生徒の学習態度について同僚に伝えたい。また、ホームビジットでは、急速に変化する社会にも動じず暮らす家庭の姿に驚いたが、そのことを伝えたい。

B-12　ムン・ヒョンジン（とても思う）
インターネットやテレビを通して知った日本の教育がすべてではなく、実際に行われている基本的な教育、児童生徒の適性に合わせた教育について報告する予定である。

C-17　イ・ウック（とても思う）
教育の本質とは施設でも環境でも制度でもなく人間であり、特に教職員の認識、態度、姿勢が何よりも大事だということを伝えたい。

C-18　イ・ウンスック（とても思う）
ユネスコの精神を反映した教育活動を自分の学校でも行っていきたい。

質問 14.　今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか



【主な意見】

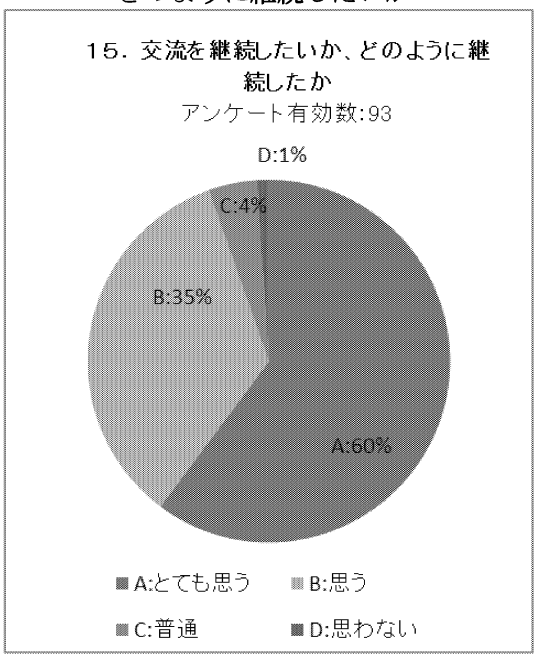
A-22　イ・ファンヒ（思う）
大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークの ESD ワークショップでは、児童生徒のプレゼンテーションやディスカッションがあったが、自分の授業でもやりたい。

B-16　ソン・ミョンギュ（思う）
規律を守り、整理整頓が行き届いており、清潔なところが印象的だった。そのような日本の長所を学校経営に生かしたい。

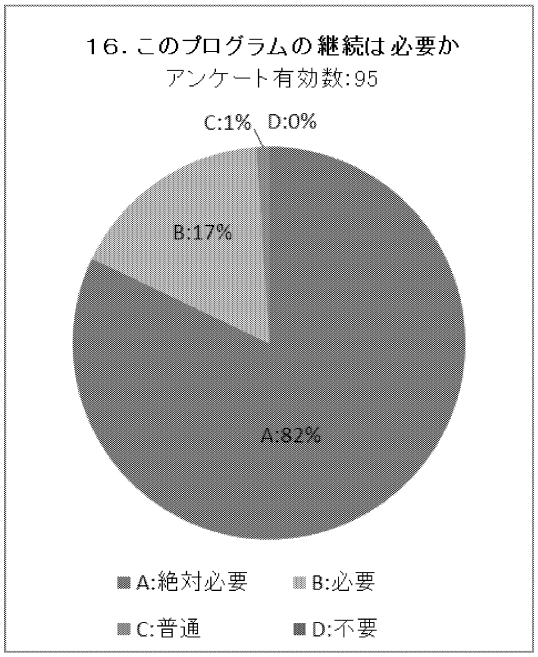
B-19　オ・グァンレ（とても思う）
さまざまな課外活動や自主性を重んじる部活動がとても印象的だった。これらを韓国の学校の現場につなげ、児童生徒にとって楽しい学校をつくりたい。

C-08　キム・ウンシック（とても思う）
日本の教育現場の教職員へのサポート体制や施設整備などについて学んだので、自分の学校でもそれを生かしたい。

質問 15. 交流を継続したいか、
どのように継続したいか



質問 16. 本プログラムの継続は必要か



【主な意見】

A-29　チェ・ビョンサム（普通）
現実的に個人的な交流を持つのは難しいと思った。しかし、今回のプログラムでの交流経験を自分の学校の教職員や児童と共有したい。

B-18　アン・ボンソン（とても思う）
ユネスコスクールとして、「GCED 研究学校プログラム」を計画している。日韓の児童生徒の訪問プログラムを実施したいと考えている。

C-16　イ・ギョンイム（とても思う）
部活動が活発な高校の生徒たちと共通のテーマで部活動交流を行いたい。

C-22　イ・ジョンヒョク（とても思う）
自分の学校には日本語学科があり、生徒は毎年日本へ文化体験をしに行っているので、姉妹校などを中心に日本の教職員と継続的な交流をし、より活発に相互交流をしたい。

【主な意見】

A-28　チェ・ジヨン（必要）
今回のプログラムにふさわしい目的意識を持った教員を対象に実施されるのなら意義深いものだと思う。

B-29　イム・ヒョンジュ（絶対必要）
他国の教育について学び、長所や短所を知り、韓国の教育の改善点考えるきっかけとなった。

C-12　パク・チョルジン（絶対必要）
両国間にさまざまな問題がある中で、民間交流を通して、互いを尊重し理解するのに「韓国教職員招へいプログラム」は大きく寄与すると思う。今後も継続する必要がある。

第Ⅲ章

関係者コメント

1. 地域プログラム受入機関

2. 訪問校

3. 主催・実施機関

紙面等の都合上、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）にて各機関等よりいただいた内容を編集して掲載しております。

1. 地域プログラム受入機関

●大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワーク

事務局長　　伊井　直比呂

プログラムの全体的印象

最初、大阪に到着された韓国の先生方31名は、なんとなく目的にバラバラな感じを受けました。例えば、興味関心を身体で表されている若い先生、使命感をもって来られている先生、とりあえず忙しい中調整をして来た、という大きく3つの雰囲気のようでした。このように、訪問団の状況は「迎える」ことで改めてよくわかります。（このことは、日本側からの訪問も同じかも知れません。）しかし、最初の訪問校である、大阪教育大学附属高校池田校舎において、ESD の総合的学習のプログラムとその考え方を図解と論理で説明が為された後、韓国の教員方からそれぞれの目的や関心で絶え間ない質問をしていただきました。この時間を通じて韓国の先生方が「目的を共有し、それを深める雰囲気」になられたようでした。また、大阪教育大学附属池田小学校の見学では特に小学校の韓国の先生方には、同じ学齢期を担当することもあり、心からの黙とうをしていただきました。これらを通して、大阪での受け入れ一日目に、国や地域が異なっても教員としての共通の「想い」などの本質的なところで「共感」を交換することができた雰囲気に至ったことが伝わりました。

二日目の大阪市立晴明丘小学校では、児童の歓迎の演奏や歌が披露された後、韓国の先生方からの歌の返礼が行われました。これらを機に相互に深い親愛の情による交流となり、迎える側と訪問する側が一体感をもって学びあう機会が生まれました。この両者の隔たりを低くして学びあう場とするのが、大阪ユネスコスクールネットワークの方針だっただけに、その一端を韓国の先生も創っていただいたことはとても有難いことでした。また、もう一つの訪問校である、箕面こどもの森学園では、児童による韓国語の歓迎メッセージ披露の後、公立等の学校教育と NPO 法人の学校とでは教育内容において何が異なり、何が普遍であるかなどをテーマに、教員間の話し合いの機会が設けられました。例えば、規則を教員と児童・生徒とが共に創る（こどもの森学園の）などの「教育」において、韓国の先生方も一生懸命に「教育」を考えあっていただいた姿がありました。

二日目の午後に訪問した大阪府立松原高等学校では、学校が基本とする人権教育や、学習内容についての説明や学校施設などの見学が行われました。当学校は社会的、家庭的背景に困難を抱えていたり、また障がいを有していたりする生徒も一定数受け入れて「インクルーシブ教育」が行われています。韓国の先生方には、これらの状況を踏まえつつも生徒の案内と説明に熱心に対応していただいたことで、松原高校の生徒はそれを感じ取って短時間のうちに先生方ととても仲良くなりました。別れる時間が来ても、松原高校の生徒が韓国の先生方と離れようとしなかったことに、厚い信頼関係が醸造されたことがよくわかります。

三日目午前は、韓国と関係の深い四天王寺見学をネットワークの生徒たち 48 名の案内で行いました。この時点では、韓国の先生方も大阪ユネスコスクールネットワークの交流コンセプトを理解してくださっており、生徒を通じてどのような教育活動や準備が大阪ユネスコスクールネットワークの活動として行われてきたのかをわかっていただいたのではないかと思われます。おかげで、15 校の生徒が案内した四天王寺ツアーは、生徒の案内や説明は不十分であったと思われますが、よく尊重していただきました。

三日目午後に行われたネットワーク校の生徒および韓国の先生との ESD ワークショップ（持続可能性の身近な課題に気づき、それらに共通する課題や問題の同根性を発見する）は、初の試みでしたが、日本側の先生も参加したい、との声も聞こえるほど韓国の先生と日本の生徒がよく連携できていました。国際的な学びの大きな成果と可能性を得ることができました。

課題として、これは日本から訪問した際にも、私たちの訪問メンバーが同様のことをしていたのを目にしたことであるので、

韓国の先生方についてのことではなく相互に必要なこととして記します。日韓教員交流の重要な視点は、ASPnet であるからこそ、相互の敬意の交換と学び（学びあい）であるものと思われます。この観点から事前研修をしっかりしてから相互に訪問するようにしなければならないように思います。

プログラム成果

今回、プログラムの多くの点で共感的に交流することができた点が今後につながる大きな成果であったと思います。例えば、（一般論として）訪問する側が Demandable である場合には、小さなことでもその要望に応じるために多くの人の動きと時間を要します。しかし、今次の訪問団メンバーは、総じて、様々な状況の中で参加者各人が最善を尽くして振る舞い、参加し、そして協力して交流を担っていただけたと感じています。この結果、（私たちネットワークは）限られた人員とエネルギーをプログラムの中身の進行と深化に集中することができたと思います。もちろんプログラムを準備する点においてホストの役割は極めて重要であり、その責任は果たさなければなりません。しかし、その準備と責任は ASPnet であるからこそ、相互に「学びあう」ために費やされるためのものであり、ホスト側（提供する側）とゲスト側（消費する側）と二分された関係で終わるものはないと考えられます。このことは、かねてから大阪ユネスコスクールネットワークの活動の重要な柱としていた、参加する人と、準備する人との関係ではなく、協働と協力、そして共創と共有に相応しい ASPnet 的、そして ESD 的なホストとゲストとの関係性が構築されていたことを感じられました。このような感覚をもって交流を終えることができたことが大きいように思われます。

プログラムの改善に向けた助言

・受け入れ機関やホームビジットに係る一家庭に対する謝金は運営実態に即していませんでした。
・家の広さは何平米か、というような経済状況や資産を質問されているともとられる「質問」がありました。大阪で受け入れていただけない方は、比較的狭い都市型マンションに暮らしておられる方、比較的古い家に住んでおられる方、狭い間取りで住んでおられる方で、それを理由として殆ど受け入れていただけませんでした。多くの場合に、何か測られている（あるいは比較されている）と感じるような会話にならぬよう、相互に気を付ける必要性を感じました。
・最後の振り返りの会（21 日）の際のプレゼンで、代表の方がプレゼンで扱っていただいた「学校」と、全く触れられていなかった「学校」がありました。今次、全く触れられていなかった学校の先生がそのことをお知りになると、きっと心を尽くして準備してくださった学校からいたしますと、とても残念に思われるに違いありません。学びあうという観点、相互に尊重するという観点から、印象に残ったところだけでなく、最終プレゼンでは訪問校について少しでも触れることが必要だと思います。これは、日本側にも相互に言えることだと思われます。
・教育行政機関以外の私たちネットワークとの協働により、日韓教員交流事業がなされましたこと、どうも有難うございました。きっと、行政機関と対応されることと、ただ ASPnet としての学びにのみ共感して構築されているネットワーク組織では、対応が大きく異なったことと思います。逆に、教育行政機関のようにしない「研究・実践のネットワーク組織」であることで、大阪府教育庁から私たちは信頼されています。そういう意味で大変なことだったとお察しします。どうもありがとうございました。

●池田町教育委員会
主事　　水野　愛実

プログラムの全体的印象

韓国教職員の明るく積極的な活動参加が印象的でした。

プログラム成果

池田町教育員会も改めて活動への意欲が

増し、町として多文化教育への関心が高まりました。また、訪問校では、他文化に直接触れ、外国語で交流できたことで、これからのESD活動がさらに充実したものになると思います。

プログラムの改善に向けた助言

ACCU 側で丁寧に準備をしてくださったので受入れしやすかったです。ただし、質疑応答などにおいては、事前に聞きたいことを文章でいただけるとより詳しい説明ができると思いました。

●愛知県教育委員会

課長補佐　　彦坂　永利子
主事　　牧原　幸子

プログラムの全体的印象

受け入れをする前の不安感に比べると、受け入れ終了後の充実感が想像したよりも大きく、受け入れ事業を実施して良かったと感じています。特にホームビジットにおいて、受け入れ家庭の皆さんがホテルまで先生方をお送りいただいた際に、先生方からは各家庭のもてなしに対する高揚感が、受け入れ家庭の皆さんからは去りがたい想いでいてくださったことが伝わってきて感動的でした。懇談会においては、愛知県における私立学校と公立学校の特色などいろいろとご質問をいただき先生方の興味関心の高さを肌で感じることができました。

プログラム成果

本県教育委員会にとりましては、外国の方の来県における対応に関して、貴重な経験となりましたので、これを1つの実施例として今後に活かしていけると感じています。訪問校においても、学校に対する質問などを踏まえて、それぞれの学校における教育活動を振りかえる良い機会になったのではないかと思います。ホームビジットの受入れを行った愛知県立千種高等学校においては、受け入れ家庭の生徒にとって貴重な体験となりました。これをきっかけにアジアの学校との交流も促進されるのではないかと期待しています。

プログラムの改善に向けた助言

京都での成果報告会において、本県においでいただいたCグループの発表で、各校の教職員ともっとじっくり話ができると良かったとの改善要望をいただきました。今後、同様な事業を本県で実施する際には検討したいと考えますが、授業時間後に多くの先生方のご出席をいただきつつそのような会を実施するのは、長期休業中でもない限り、相当困難であろうと思いました。また、長期休業中ですと先生方のスケジュールは押さえられても授業を観ていただくことが難しくなり、一長一短だと考えます。

風邪が流行する季節だったせいか、旅行中に複数の先生方がインフルエンザを発症されたことは非常に残念でした。病気対応など、季節柄ありうることですので、もう少し事前に打ち合わせをしておくべきだったと感じています。

初日に行った意見交換会の講評において、少し時間が足りなかったというご意見をいただきました。しかしながら、次の予定等を考えるとなかなか時間の確保をすることが難しい部分もありますので、全体の人数をもう少しコンパクトにしていただくと、1人あたりの質問の時間も増え、より深く交流できるのではないでしょうか。

2. 訪問校

●麹町学園女子中学校高等学校
教頭　　馬渕　和士

プログラムの全体的印象
韓国教職員の熱心な参観の様子が大変印象的でした。授業そのものだけでなく、校舎建築や教育方針についてのご質問も多く、とりわけ生徒の表情や様子についてよく観察されていたことは、教育の改善に役立てていこうという意志の現れと思われました。

プログラム成果
韓国の先生による文化授業の取り組みは、生徒にとってまたとない異文化教育の経験となりました。そして、本校教員においても、様々な質問を受けたことによって、教育に携わる職責としての認識を改める機会になりました。訪問団の先生方の真摯な姿勢が、良い刺激になったと思います。

プログラムの改善に向けた助言
受け入れ準備については、ACCU より行き届いたご配慮と適切なアドバイスがあり、安心して受入れ当日を迎えることができました。前日のレセプションでも、訪問予定の先生方と事前にご挨拶させていただけたことで、当日もお互い気を楽にして実施できたことと思います。

●大阪教育大学附属高校池田校舎
教諭　　治部　浩三

プログラムの全体的印象
今回韓国の先生方を迎えるにあたり、できる限り特別なことは行わず、普段通りの授業の中で、普段通りの生徒たちを見ていただけるように心がけました。高校での総合的学習や小学校の安全教育には特に関心を持っていただけたと思います。歓迎行事的な内容を極力減らし、教育内容の説明に時間を多く割いたことで充実した訪問交流を実現できたと思います。

プログラム成果
韓国の先生方が積極的に交流していただいたことで学びが多かったです。SDGs に関するポスターセッションの準備段階を見ていただいた 1 年生生徒との交流場面では、どのような課題を取り上げ、どのような視点から問題解決に向かうのかなど、具体的な質問や意見交換が活発に行われました。また、附属小学校では過去の事件を踏まえた安全教育に高い関心を示され、その考え方や方法についての意見交換も活発に行われました。

プログラムの改善に向けた助言
韓国との教員交流も歴史を積み重ね、これまでの成果を踏まえたうえで、お互いの教育現場での問題点や困難な点、課題などを本音で語り合えるようになれば素晴らしいと思います。経済的困難な家庭の生徒や問題行動を起こす生徒を多く抱え、そんな生徒たちを社会に適応するよう努力を重ねている学校もお互いの国には多く存在します。そのような学校にもお互いに訪問し合い、課題や生徒指導について意見を交わすことができれば素晴らしいことだと思います。

●NPO 法人箕面こどもの森学園
ESD コーディネーター　高原　麗奈

プログラムの全体的印象
学校説明や校内見学の際に、さまざまな質問をされながら熱心にご覧いただいたことが印象的でした。韓国のみなさんと学園スタッフ数名が昼食をとりながら交流することができ、韓国と日本の教育システムや、実施されているカリキュラムについて意見交換など大変有意義な時間を過ごすことができました。
皆さんから、「子どもたちが主体的に行動していると感じた」、「学校の中に家庭的な雰囲気を感じた」、「教育の本質を考えさせられた」などの感想をいただきました。また、「子どもたちが対話をする際に、どのように合意を取っているのか。その話合いの仕方が知りたい」、「地

域とのかかわりをどのようにしているのか」、「日本ではオルタナティブスクールが何校ほどあるのか、また学校同士の交流はあるのか」などの質問をいただきました。

プログラム成果

国の文化や教育システムは異なっても、教育の中で大切にしたいことや価値観に通じることや共感することが多くあり、それらに気づくことができたのが大きな成果になったと感じています。

韓国のみなさんからのコメントやご質問を通して、自分たちの実践を見直す機会をいただくこともできました。

歓迎会を実施するにあたり、子どもたちが海外の方をどのようにお出迎えをするのか、どうしたら喜んでもらえるのかを考え、経験する機会をいただきました。韓国のみなさんが温かく接してくださったこともあり、子どもたちにとっても楽しく思い出深い一日になった様子です。ホームビジットでは、生徒の家庭でも受入れていただきましたが、料理をともに作ったり、韓国と日本の家庭の様子や教育についてもたくさんお話されたと聞きました。また訪問された先生が、日本の詩や歌をご披露いただいたことが、とても印象的だったと聞きました。子どもたちと韓国から来られた方と直接交流されたことが大変貴重な経験だった様子です。

プログラムの改善に向けた助言

受入れ準備では大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークの伊井先生、大島先生、太田先生をはじめ事務局の先生方より、当日を迎えるまでの多くのご配慮とサポートをいただいたことで、無事に実施することができました。またレセプションからホームビジットまで、大阪 ASP ネットワーク校のチームワークを改めて感じる期間でした。

良かった点としては、学校説明や見学を通し、普段の学習風景や等身大の子どもたちの姿をご覧いただけたこと、歓迎会は、子どもたちが手作りの歓迎会を行うことができたこと、また、短い時間ですが子どもたちと韓国教職員のみなさんと直接交流させていただく機会があったこと、通訳の方が、見学のグループごとに入っていただき、説明をサポートしてくださったこと、昼食のお弁当を喜んでいただけたことがあげられます。

また、当日気づいたこととして、写真撮影については、子どもたちが学習中だったため、多くの方に撮影いただくより、後ほど共有いただけるよう代表者の方に撮影していただくようご協力をお願いいたしました。こちらは事前に説明できると良かったと感じました。

●大阪市立晴明丘小学校
首席　　河西　透雄

プログラムの全体的印象

講堂で行ったウエルカムセレモニーで、韓国の教頭先生からパンソリを披露していただいたことが印象に残った。一緒に参加した子どもたちも教職員も大喜びで、その後の休み時間にはパンソリを真似する児童の姿が見られた。

お昼は、韓国教職員のみなさんに給食のカレーライスを食べていただいたのですが、給食の量が少なかったのか、「少し足りない」「日本の人は少食ですね」との声があった。

韓国の教職員と日本の教職員との交流の時間があればよかった。

プログラム成果

日本の児童にとって、韓国という国がより身近に感じることができた。

本校の教職員からは、「韓国の学校を見学に行きたい」「今後も引き続き、韓国の教職員との交流を深めていきたい」「他の国の人々とも交流の場があれば」などの声が上がった。

プログラムの改善に向けた助言

韓国教職員の方々が日本の小学校のどんな面を見たいのかが事前にわからず、準備に困った。

●大阪府立松原高等学校
教諭　　鹿原　優子

プログラムの全体的印象
全体として非常に良い交流になったと感じています。特に以下の点が印象に残っています。
・学校訪問の際、韓国の先生が、オルタナティブな学校だという感想をもってくださったこと。
・生徒がひとりひとり先生方について、満足のいく対応ができなかった生徒もいると思いますが、帰り際に、生徒が帰りたくないと思えるほど、いい交流になったこと。
・校内見学後の教員同士の交流。

プログラム成果
見学後の教員交流で、活発な議論がなされたことです。私は全体を見ていましたので、ひとつひとつの班の内容をじっくりと聞いているわけではありませんが、担任制度のことや授業の担当のことなど、外部から質問を頂くことで、自分たちの活動を再確認できたこと。また、ハングルを学んでいる生徒の自信になりました。コミュニケーションを取れた子もいれば、なかなか難しかった子もいるようですが、生徒 1 人で 1〜2 名の韓国教職員を担当することで、責任感も生まれていました。また、学校と韓国との交流をさらにすすめるきっかけになった。

プログラムの改善に向けた助言
受け入れ準備について、教職員の方の名札等すべて生徒が作成しました。そのような活動を通して、生徒自身が韓国の先生をお迎えするという気持ちを持つことができました。
放課後の教員交流に、もう少したくさんの教員が参加することができればよかったのですが、学校行事や生徒指導との関連で松原高校側の出席者が少なくなってしまいました。
約 30 名の先生方が授業中に校内を見学するということで、順路の計画や担当者への周知など時間がかかることもありましたが、多くの授業で快く受け入れてくださいました。韓国の先生方がどのような授業を見学したいと思われていたのか、その希望に添えたのかわかりませんが、本校の特色である様々な授業を見ていただきよかったと思います。

●東京都市大学等々力中学校･高等学校
教諭　　三田　明美

プログラムの全体的印象
当日行ったどのプログラムについても、本校滞在中非常に高い関心を持っていただいていたのがよくわかって良かったです。ある先生は「来日前、『日本の高校生はお化粧をしていて、また、生徒も教員も暗い！』と聞いてきたのに違った」、「日本のおもてなしを受けた」など、素直な感想を聞くことができて、よい交流ができました。すべてにおいてたくさんの質問をいただいたこと、写真に収めておられたことがとても印象に残っております。また、そういった質問に生徒が良く答えており、生徒にとってもよい経験となったと思いました。

プログラム成果
初めて異文化交流ができたことです。

プログラムの改善に向けた助言
歓迎の横断幕の準備、CLCA ルームでのおもてなし、記念品交換のタイミングなどに改善の余地があると感じました。

●池田町立温知小学校
校長　　仲井　智一

プログラムの全体的印象
歓迎会や公開授業の児童の姿を見ていると、たとえ短い時間であっても異なる文化や言語の人々と接することは、日本以外の国々をよりよく理解しようとする態度を育てていくためによい機会になると思いました。

プログラム成果
6-3-3-4 制や入試制度など、日本と韓

国が教育に関する制度で似ている点が多いことや、いじめや不登校などの教育現場がかかえる問題は、日本と同様であることがよく分かりました。子ども達1人ひとりが、明るく元気に生活できる環境を整えていくことが、日韓問わずに求められることが感じられました。

プログラムの改善に向けた助言

特にありません。

●池田町立池田中学校
教頭　　蟹江　康弘

プログラムの全体的印象

訪問前日の懇親会がとても、重要だと感じています。見知らぬ人たちと話す、身近になるためには、国は違っても、食事を一緒にするなど、一緒に何かを行うことだと分かりました。また、学校訪問時に、韓国の歌や踊りを一生懸命に披露していただけてよかったです。ホームビジットでは、どの家庭からも、「楽しかった」という感想をいただきました。韓国の先生方からも、ホームビジット終了後、本校を出発する時に、「愛着が沸いた。」という言葉をいただき、印象に残っています。

韓国教職員による文化授業がとてもよかったです。韓国の先生方が、生徒を見ると、積極的に声をかけたり、笑顔をしたりなど、やはり子どもが好き、子どものためにという点は教員として同じだと感じました。

プログラム成果

韓国をより身近に感じることができる生徒が増えました。教職員においても今回の交流を通して、国家間の問題はあるが、人としてのつながりが大切なことを感じることができました。また、日数を重ねると、韓国の先生方に自分からあいさつする生徒が増えたのも印象的でした。

プログラムの改善に向けた助言

ACCU の担当職員と細かな点まで連絡、調整ができ、準備ができました。

小中学校を使う場合は、お茶やお菓子を準備していますが、日本では、お茶やお菓子をもって授業にはいきません。その旨、事前に伝えておけばよかったと感じました。

●池田町立池田中学校
教諭　　児玉　岳

プログラムの全体的印象

「ゴミは、ゴミではなかった」、本校のゴミの分別への意識の高さについての言葉です。当たり前に行っていることへの価値付けに気づくことができました。また、日本人の謙虚さ、一体感というよさを認めてもらえたことも生徒を価値づけることができた。また、韓国教職員の「Life is between Birth and Death」という言葉も印象に残りました。「Education is between Base and Development」、C を探す人生にしたいと思いました。

プログラム成果

日本人のよさについて上述のように再認識できたことです。同時に課題についても、考えることができました。個性と一体感を両立するためには、どうすればよいのか。また、ＡＩが雇用を奪っていく社会の中で身に付けるべき力は何なのか、ESD の精神をもとに、考えていきたいと思いました。

プログラムの改善に向けた助言

ホームビジットの受け入れが大変だと感じました。普通のことをすればよいと分かっていても、難しく、負担が大きく感じました。また、受入れ謝金についても改善の余地があるように感じられました。

●渋谷教育学園幕張中学校･高等学校
教頭　　深村　誠

プログラムの全体的印象

韓国の先生方が、日本の学校に非常に興味をお持ちということが、授業見学の最中の多岐に渡る質問で感じられ、嬉しかったです。特別な結果を出すためには特別なシステムがあるのだろうという前提で、カリキュラム、授業、入試、授業料、部活動、校則、生徒の基質、教員の立場や待遇等へ

の細かい質問を受けました。特別なことをしていないので、がっかりされたようです。

韓国教職員による文化授業は、アイスブレイクや全体の構成が三者三様で、教員として参考になりました。生徒も韓国文化の一端を知ることができ喜んでいましたが、高校生対象ということを考えると、ゲームよりハングル講座が心をつかんでいるようでした。

最後に、生徒との交流会に参加した本校生徒の感想を紹介します。「生の韓国語を初めて聞き興奮した」、「韓国の学生の様子を少し知ることができ楽しかった」、「こちらからも質問して韓国の様子を知りたかった」、「円座でフリーに会話できたらなお良かった」などの感想があがりました。

プログラム成果

韓国の先生方が極めてフレンドリーで、和やかに交流することができました。これは関係した本校教職員全員の共通した感想です。私自身も、これまで韓国の方と接する機会がなく、根拠のない先入観に囚われているところがあり、「近くて遠い隣国」の1つでしたが、今回のご訪問で印象が大きく変わりました。国連大学やACCUがこのプログラムを運営される意義を実感しました。単発であっても、直接交流することで得られる成果が計り知れないことを目の当たりにすると、このプログラムで少しでも多く人が交流する機会を継続する重要性を再確認しました。

プログラムの改善に向けた助言

内容の打合せが事前に細部までで き、具体的なイメージを持ってお迎えできた点は助かりました。とはいえ、訪問日が、本校の入学試験日程と近接しており、十分な対応ができずご迷惑をお掛けしました。千葉県の私立学校は、どこも同様の日程で入試を行っています。来年度以降の訪問校を決定する参考にしていただければ幸いです。

●愛知県立みあい特別支援学校
教頭　　山本　正人

プログラムの全体的印象

3時間足らずの訪問でしたが、たくさん質問していただきました。質問とともに、韓国では3歳から18歳が義務教育であること、教育課程は国が作ること、高等学校に支援クラスがあることなど、韓国の様子も紹介していただけたことがありがたかったです。

プログラム成果

今回の訪問を通して、本校のESDの取組やICTを活用した授業の様子を見ていただけたことは、本校にとって大変有意義なことでした。また、韓国の先生方からは、韓国の教育制度や教育事情も紹介していただけましたので、韓国のことを少し知ることができたように感じています。日本の文化や教育について見直すきっかけができたことと、日本の素晴らしい文化や教育を持続可能にしていきたいと感じる機会となりました。

プログラムの改善に向けた助言

事前に愛知県教育委員会の担当者を通して ACCU 担当職員と連絡を取り合い準備を進めることができたこと、さらに、2か月前に教育委員会担当者、ACCU担当者、本校職員の三者が本校で打合せができたのは準備をする上で大変安心できました。ACCU担当者から韓国の先生方に飲み物を用意するように依頼がありましたので、韓国に留学したことのある方から情報を収集し、ミルクの入ったコーヒー3種類と水2種類のペットボトル飲料を用意し、入室の際に選んでいただきました。お帰りになった後、飲みかけのコーヒー飲料のペットボトルが机の上に残されていましたので、情報収集が甘かったかなと反省しています。

●愛知県立千種高等学校
校長　　小島　伸之

プログラムの全体的印象

来日された韓国の先生方は、立場が様々で年齢層・性別も偏りがなく、個別に色々な観点から話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。1月18日（木）の歓迎会での演技や、19日（金）の本校での情報交換会から、情熱的でエネルギー旺盛な韓国の人々の国民性を実感しました。どの方も日本への興味・関心が高く、うれしく感じました。情報交換会では、「本校には授業を妨害する生徒がいない」という発言に対して驚きの様子がうかがえました。韓国は日本よりも授業規律が厳格であると思っていたので意外でした。愛知県の県立高校においては、授業を妨害する生徒はどの学校にも存在しなくなってきています。多くの参加者の方から、「千種高等学校の生徒は明るい。韓国の生徒はこんなに楽しそうではない」という声を聞きました。日本においても、生徒の様子は学校によって異なり、本校のような状況ばかりではないことを伝えるべきだったと思っています。

プログラム成果

日韓の軋轢が連日報道されていますが、こうした文化的な交流を行うことで、両国の国民が人間同士の友好関係を維持しようとしていることがわかり、違った目で報道を見ることができます。

受け入れ側としては多々準備することがありますが、その準備を通じてユネスコスクールとして期待される役割が確認できたり、職員の協力体制が強くなったりといったメリットがあると感じました。

ホームビジットからホテルに帰着した先生方の笑顔が、成果の全てだと思いました。やり甲斐を感じました。

プログラムの改善に向けた助言

授業見学で、参加者の中に、「教室の中に入るのは迷惑になるからやめよう」という声をかけられた方がいて、廊下から遠巻きに見学することになったと教頭から聞いています。ご配慮は大変ありがたいのですが、逆に、楽しみにしていた生徒・教員にとっては拍子抜けになってしまいます。オリエンテーションの時点で、教室の中に入って見ることは構わない旨、説明をしていただくことが必要だと思います。

学校への謝金は、もう少し増額していただけると助かります。現在の予算で、この人数の参加者1人ひとりにお渡しする記念品やお茶等を準備するのは、正直のところ厳しいです。年度途中で実施が決定した行事については、PTAの活動費の使用が難しいことをご理解ください。

提出物については、提出方法を予め明示していただけると助かります。例えば、ホームビジットの「振込先情報」は、事前にエクセルファイルによる提出であることがわかっていれば、学校が収集する段階でエクセルを用いる方法をとることができました。

ACCU並びに愛知県教育委員会のみなさまには、大変お世話になり感謝申し上げます。今後も、ご協力できる機会がありましたら、参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

3. 主催・実施機関

●国際連合大学
サステイナビリティ高等研究所
事務局長　古田　知美

日韓の関係者の多大なるご協力のもと、東京、愛知、岐阜、大阪で多様な側面から教育機関の見学、教職員や生徒との交流、授業体験などを実施していただきました。参加した先生方のご報告からも、日本の教育制度について理解を深められたことが伺えました。また、受入れてくださった各学校・教育機関の皆様の事前準備や当日の細やかなおもてなしを受けて、日本に良い印象を持って帰国いただいたと思います。

これまでに国際教育交流事業にご参加いただいた方々にも、訪問した国や人々に良い印象を持って帰国いただいています。学ばれた各国の教育制度については、今後変わってしまうかもしれませんが、相互に深められた友好関係は永くお互いの心に残っていくものと信じています。「子供は大人の鏡」といいますが、帰国された先生方のご活躍により、次世代の子供たちが映し出す姿が、お互いの国を平和で暖かく見つめる姿であることを期待しています。

本プログラムの実施にあたり、お忙しい中、学校教育現場や教育機関をご視察いただくために、多大なご尽力を賜りました日本・韓国の関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

●ユネスコ・アジア文化センター
人物交流部　部長　進藤　由美

日韓の交流は、ACCUが実施する国際教育交流事業の中で最も歴史があるものです。第18回となるこの度、国際連合大学、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部、大阪ユネスコスクールネットワーク、岐阜県池田町教育委員会、そして愛知県教育委員会の多大なるご協力のもと、無事に実施することができました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

韓国の教職員はユネスコスクール加盟校として、ESD（持続可能な開発のための教育）やGCED（地球市民教育）に積極的に取り組まれているということもあり、日本のユネスコスクールの現状について大きな関心を寄せていました。ユネスコスクール事務局による「日本のユネスコスクールについて」の講義では、教職員から様々な質問や提案を頂き、今後の日本のユネスコスクールの発展にも繋がるヒントを頂きました。また、本年度の地域プログラムでは、受入を自治体に絞るだけでなく、地域に根付くネットワークとして、大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークが手を上げてくださったことも大きな成果ではないでしょうか。

1月という季節柄、少し体調を崩された先生もおられ心配しましたが、なんとか無事に行程を終えることができました。皆様から頂いた貴重なコメントやアンケートの結果を踏まえて、さらによいプログラムを実施していきたいと思っております。ありがとうございました。

●ユネスコ・アジア文化センター
人物交流部　齋藤　盛午

第18回目となる本プログラムでは、カウンターパートである韓国ユネスコ国内委員会（KNCU）での担当部署が、教育チームからユネスコスクールチームに変わったことを受け、例年以上に参加者のユネスコスクールや日本のESDの実践例への興味関心が高いことを準備段階から感じ、そのニーズに応えられるよう、新たな試みとして、ユネスコスクール事務局であるACCUによる「日本のユネスコスクールについて」と題した講義を設けたほか、地域受入プログラム受入機関や東京近郊の訪問校選定においてもACCUの持つネットワークを最大限生かし、日本のユネスコスクール、ESDについて学びたいという参加者の方々に満足していただけるプログラムをつくりたいという想いで準備を進めてまいりました。

私が随行したAグループは、東京で麹町学園を訪問しました。同校では授業参観のみならずユネスコ活動の時間を見学させ

ていただき、どの参加者もとても興味深そうに見学していたのが印象的でした。また、韓国教職員による文化授業が行われ、同校の明るい生徒が韓国の先生と一緒に楽しそうに詩を朗読するすがたは、これこそ国際交流の醍醐味と思わせる、素晴らしい時間となりました。

地域受入プログラムでは、大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークに訪問を受け入れていただきましたが、本事業において教育委員会以外の機関が受入れを行うのは初めてのことであり、画期的なプログラムとなりました。韓国のユネスコスクールの先生方から、「日本のユネスコスクールがどのように連携しているのかを知りたい」という要望が毎年寄せられておりましたが、今回の地域受入れプログラムを通して、大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークからたくさんのことを学ぶことができたという声が多く寄せられました。また、ネットワークである強みを生かし、さまざまな校種、そして国立、公立、NPO 法人に至るまで多様な形態の学校をお見せいただきました。訪問校のみならず、ネットワーク全体で話し合いを重ねながら、1つずつ丁寧にプログラムをつくりあげてくださったこと、また、日常の業務でお忙しい中、学校が終わったあとや土日祝日なども使いながらたくさんの先生方が協力して準備を進めてきてくださったことを思うと頭が下がる思いです。

プログラム実施にあたり、受入れにご協力いただきました各機関、訪問校のみなさま、この場を借りてあらためて心より御礼申し上げます。

●ユネスコ・アジア文化センター
人物交流部　河口　枝里子

昨年度に引き続き、今年度も本プログラムのグループを担当させていただき、改めて日韓交流の大切さを実感しました。私が担当したBグループでは、昨年ユネスコスクールに加盟をした東京都市大学等々力中学校・高等学校と池田町立池田中学校、そして池田町教育委員会、池田町立温知小学校と韓国教職員を迎える準備のため、数ヶ月にわたり協力していただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

東京都市大学等々力中学校高等学校訪問では、終日同校の生徒たちが訪問団を案内してくれたり、質疑応答で答えてくれたりするなど、交流の機会が多いプログラムとなりました。韓国教職員を前に、英語でも堂々とお話をする生徒たちを見て、韓国教職員も驚くとともに、楽しく交流している姿を嬉しく思いました。

また、池田町での訪問校でも多くの子どもたちが積極的に手を上げて質問していました。「韓国と日本の共通点は？」「韓国でおすすめの場所は？」「韓国ではどのようなESD活動をしていますか」など、韓国について、知りたいという気持ちが、あふれ出ており圧巻されました。お互いを知りたい、という気持ちは、持続的な交流につながることと思います。

また、池田町教育委員会の受入れでは、7月に訪韓した教職員も中心となってプログラム作りをしていただきました。本プログラムは、7月に実施された「韓国政府日本教職員招へいプログラム」と対となるプログラムとして実施されています。そのため、韓国での経験を生かしたプログラム作りとして携わってくれたことで、より深い交流ができました。実際に、同町へ3日間滞在しましたが、多くの先生が忙しい中、3日間携わってくれたことで、お互いの親しみが増しました。

一方で、韓国の先生方も1ヶ月前のオリエンテーションから、日本の子どもたちに発表する出し物や文化授業の準備をしてこられました。発表当日も、日本の子どもたちのために！と真剣なまなざしで発表をしてくださいました。本プログラムには、お互いが学び合い、喜び合う顔を想像しながらプログラムを作り上げていくプロセスがあります。そのプロセスが、今後も事業を越えても長続きするよう、本事業を一層充実させるとともに、先生方のサポートにも尽力して参りたいと思います。

●ユネスコ・アジア文化センター
人物交流部　伊藤　妙恵

私が同行したCグループは、千葉県にある渋谷教育学園幕張中学校・高等学校および2014年に国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の世界会議“「持続可能な開発のための教育（ESD）」最終年会合”が開催され、ESDの普及啓発に熱心に取り組む愛知県にある愛知県立みあい特別支援学校、愛知県立千種高等学校を訪問しました。

いずれの学校も、特色のある教育哲学や目標を掲げ、生徒の教育に熱心であり、その地域において注目を集める先進的な学校でした。どの学校もユネスコスクールとしても活動しており、同スクールに関心の高い韓国の先生方にはその様子をご覧いただきました。

私にとって初めてプログラムを通して韓国の先生方に同行し、学校や施設等を訪問させていただきました。準備段階では、短い時間でも韓国の先生方に日本での経験が有意義であったとお感じいただけるよう、受入機関となる学校や教育委員会の先生方・ご担当者様とはプログラム開始近くになるにつれ、連日、時には日に何度もやりとりさせていただきました。この連携を通じ、お忙しい合間を縫って、学校内または関係部署との調整に力を注ぎ、準備してくださっていたことを実感しました。韓国の先生方が校内を歩いていると、傍を通り過ぎる生徒さんや先生方が笑顔で、時には韓国語でご挨拶なさっている様子から、学校が一丸となってお迎えする体制を整えてくださっていることが分かりました。温かいお心遣いが学校の隅々まで届いていました。当方の不手際でご迷惑をお掛けしたことが多々ありましたが、各所での先生方の優しい眼差しに見守られ、教育に長年携わっていらした間に培われたと思われる辛抱強い人柄に多く助けていただきました。あらためてこの場を借りて心より感謝申し上げます。

韓国の先生方に関しては、オリエンテーションや歓迎レセプションでは100名弱の先生方が一同に会し、なかなか顔の区別がつかず、短期間で打ち解けられるか心配でした。しかしながら、1～2日が経つと、先生方の個性が表れ、寡黙な先生、お話し好きな先生、日本語で意思疎通を図ろうとしてくださる先生、朝が弱い先生・・・多様性に富んでいました。Cグループは、泰然自若とした、包容力のあるキム・グァンホ団長の雰囲気がグループ内に波及していたのか、終始穏やかで落ち着いていました。また、朗らかな人柄の先生方多く、ACCUスタッフにもよく声を掛けてくださいました。予定より移動時間がかかり、昼食時間の短い日が続いても、「大丈夫」「30分あれば十分」のような声を掛けてくださり、運営側にお気遣いいただくことも多々ありました。

韓国と日本の先生方とは、各教育現場におけるさまざまな違いを意見交換の場や授業見学の合間に認識なさったこともありました。一方、教育現場で抱える問題や課題等、分かり合えることも多かったようです。歓迎レセプションや夕食会では肩肘張らず、胸襟を開いて言葉を交わす姿、訪問先の学校での真剣な表情、生徒を見つめる温かい眼差し、好奇心を持って質問し、またそれに応える様子、どの場面も印象的で心に残るものばかりです。お互いの温度が伝わる距離で話し、交流することの大切さを両国の先生方にたっぷり教えていただきました。この事業は交流を通じた相互理解、友好関係の構築が目的で実施されています。短い期間ではありますが、たくさんの種が双方の先生方の間に蒔かれ、この芽がいつか芽吹くことを切に願っています。先生方のつながりがこれで終わることのないよう、今後もフォローアップ事業を始め、持続的にこの交流活動に携わっていきたいと考えています。

付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 過去のプログラム実績

◆付録 1. 実施要項

国 際 連 合 大 学

２０１７-２０１８年 国 際 教 育 交 流 事 業

韓国教職員招へいプログラム

（2018 年 1 月 16 日－22 日）

実 施 要 項

1. 背 景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、我が国と韓国の教職員間の交流を深め、両国民の相互理解と友好の促進に資するため、国際連合大学の委託を受け、国際教育交流事業として韓国から初等中等教育教職員を招へいするプログラムを実施しております。

また、2003 年からは同プログラムと対をなすものとして、日本の初等中等教育教職員が韓国を訪問するプログラムを実施しております。2017 年 8 月までに韓国から招へいした教職員数は延べ 1,995 名にのぼり、日本から訪韓した 616 名と合わせ、日韓間の相互理解促進、学校間交流に大きく貢献してきました。

第 18 回となる今回も、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部および大阪ユネスコスクールネットワーク、池田町教育委員会（岐阜県）、愛知県教育委員会のご協力のもと、2018 年 1 月 16 日（火）から 1 月 22 日（月）までの 7 日間にわたり、韓国から初等中等教育教職員 100 名を日本に招へいします。

2. 目 的

(1) 日本の教育制度、学校教育の現状や特色ある取り組みを韓国教職員に紹介するとともに、持続可能な開発のための教育（ESD）や持続可能な開発目標（SDGs）について地域の好事例を紹介する。
(2) 学校等での意見交換を通じて、日韓の教育の質を高める。
(3) 日本の文化および社会全般に対する理解を深める。
(4) 訪問する学校や施設などでの交流を通じて、日韓教職員の持続的なネットワークの構築、強化に寄与する。
(5) 日韓の学校間での交流授業および交流プロジェクトのきっかけをつくる。
(6) 日韓両国の相互理解と友好を促進する。

3. 日 程

本プログラムは、下記の日程で実施される予定です

日付	日程	訪問先	活動
1/16（火）	第 1 日	東京	日本到着 オリエンテーション、文部科学省講義 歓迎レセプション
1/17（水）	第 2 日	東京	学校訪問
1/18（木）-1/20（土）	第 3-5 日	各地域 （大阪府/岐阜県池田町/愛知県）	東京から移動、受入機関表敬訪問、歓迎会 学校訪問（授業見学、教員、児童生徒との交流） 教育文化施設視察、ホームビジット、 報告会準備など
1/21（日）	第 6 日	各地域から京都へ移動	報告会・閉会式
1/22（月）	第 7 日	京都、大阪	日本出発（関西国際空港）

4. 参加者数・グループ分け

100 名（3 グループ）

＊ A・B は 33 名、C は 34 名とし、1 月 18 日～20 日の 3 日間、以下の地域を訪問する。

	訪問地	受入れ機関	参加教職員
A	大阪府	大阪ユネスコスクールネットワーク	主に小学校・中学校・高等学校の教職員
B	岐阜県池田町	池田町教育委員会	主に小学校・中学校の教職員
C	愛知県	愛知県教育委員会	主に高等学校・特別支援学校の教職員

5. 参加資格

(1) 大韓民国の国民であること
(2) 所属する学校等からの推薦を受けた、韓国初等中等教育の教職員であること(教育行政官及び教育専門家を含む)
(3) 日本の教職員との、主に教育分野における交流に高い関心を持つもの
(4) プログラムの全日程に参加が可能であること

(5) なお、参加者は、①45 歳以下で教員経験 1 年以上のもの、②日本の教員、児童生徒、学校との交流を希望しているもの、③持続可能な開発のための教育(ESD)・地球市民教育(GCED)の分野において積極的な活動を行っているもの、④英語または日本語の会話能力のあるものが望ましい。

6. 評価と報告

日本出発前(第 6 日)
(a) 各参加者は ACCU の用意する評価票に記入する。
(b) 各グループの代表は、報告会において発表を行う。

7. 渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。

(1) 往復航空運賃
韓国国内の指定された国際空港と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。
(2) 宿泊と食事
プログラム期間中の宿泊(朝食含、ツインルームまたはシングルルーム)、およびプログラム期間中の食事。(食事が提供されない場合については食費を支給する)
(3) 日本国内の移動旅費
プログラム期間中の、自由行動日以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

8. 海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

9. 通 訳

公式プログラム期間中は原則として日本語と韓国語間の逐次通訳が行われる。

10. 申請・推薦手続

韓国ユネスコ国内委員会は、参加者を選定し、プログラム開始約 2 ヶ月前(11 月 15 日)までに参加者リストおよび参加者のデータシート、パスポート控えを揃えて、ACCU へ推薦することとする。

11. このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 人物交流部 担当:齋藤・伊藤
〒162-8484 東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館
TEL: 03-3269-4498
FAX: 03-3269-4510
E-MAIL: accu-exchange_ml@accu.or.jp

◆付録 2. プログラム日程

Group A / B / C

Day 1: 2018/01/16 Tuesday	
◆복장 : 세미정장 / 정장 (환영만찬회) ◆석식 : 환영만찬회 ◆숙박 : 호텔선루트 아리아케	◆服装 : ビジネスカジュアル / ビジネス (歓迎レセプション) ◆夕食 : 歓迎レセプション ◆宿泊 : ホテルサンルート有明
09:00	서울 김포공항 출발 (KE2707) 金浦空港出発 (KE2707)
11:05	도쿄 하네다공항 도착 羽田空港到着
12:00-12:30	버스로 이동 バス移動
12:30-13:15	점심 식사 (The Cruise Club Tokyo) 昼食 (ザ・クルーズクラブ東京)
14:00-14:45	오리엔테이션 (호텔선루트 아리아케 2층 하나아카리) オリエンテーション (ホテルサンルート有明 2 階 花明)
15:00-15:40	강의 I "일본 초·중등교육에 대해서" (호텔선루트 아리아케 2층 하나아카리) 講義 I 「日本の初等中等教育について」(同会場)
15:50-16:40	강의 II "일본의 ASP Net 에 대해서" (호텔선루트 아리아케 2층 하나아카리) 講義 II 「日本のユネスコスクールについて」(同会場)
17:00	호텔 체크인, 휴식 ホテルチェックイン、休憩
19:00-20:30	환영만찬회 (호텔선루트 아리아케 2층 하나아카리) 歓迎レセプション (ホテルサンルート有明 2 階 花明)

Day 2: 2018/01/17 Wednesday	
◆복장 : 세미정장 ◆조식 : 2층 소사이 PATIO / 석식 : 각자 ◆숙박 : 호텔선루트 아리아케	◆服装 : ビジネスカジュアル ◆朝食 : 2階レストラン 創菜 PATIO / 夕食 : 各自 ◆宿泊 : ホテルサンルート有明
	Group A
09:15	호텔 출발 ホテル出発
10:00-14:20	고지마치가쿠엔 여자중학교・고등학교 방문 麹町学園女子中学校・高等学校訪問
15:05	호텔 도착 ホテル到着
	Group B
09:45	호텔 출발 ホテル出発
10:30-14:00	도쿄 도시대학 도도로키 중학교・고등학교 방문 東京都市大学等々力中学校・高等学校訪問
14:45	호텔 도착 ホテル到着
	Group C
09:05	호텔 출발 ホテル出発
09:50-14:30	시부야교육가쿠엔 마쿠하리중학교・고등학교 방문 渋谷教育学園 幕張中学校・高等学校訪問
15:15	호텔 도착 ホテル到着

Group A

Day 3: 2018/01/18 Thursday	
◆복장 : 세미정장 ◆조식 : 2 층 소사이 PATIO / 석식 : 환영만찬회 ◆숙박 : 호텔 아위나 오사카	◆服装 : ビジネスカジュアル ◆朝食 : 2 階レストラン 創菜 PATIO / 夕食 : 歓迎夕食会 ◆宿泊 : ホテルアウィーナ大阪
08:30	호텔 선루트 아리아케 체크아웃, 출발 ホテルサンルート有明チェックアウト、出発
10:00-11:10	비행기 이동 (NH019 하네다공항→이타미공항) 飛行機移動 (NH019 羽田空港→伊丹空港)
11:45-12:45	점심 식사 (아제리아홀 레스트랑) 昼食 (池田市立アゼリアホールレストラン)
13:00-16:30	국립대학법인 오사카교육대학 부속 고등학교 이케다교 방문 国立大学法人大阪教育大学附属高等学校池田校舎訪問
17:30	호텔 아위나 오사카 체크인, 휴식 ホテルアウィーナ大阪チェックイン、休憩
18:30-20:30	오사카 ASPNet 환영만찬회 (호텔 아위나 오사카 4 층 곤고) 大阪ユネスコスクール(ASPNet)ネットワーク 歓迎夕食会 (ホテルアウィーナ大阪 4 階 金剛)

Day 4: 2018/01/19 Friday	
◆복장 : 세미정장 ◆조식 : 1 층 카스테로 / 석식 : 각자 ◆숙박 : 호텔 아위나 오사카	◆服装 : ビジネスカジュアル ◆朝食 : 1F カステロ / 夕食 : 各自 ◆宿泊 : ホテルアウィーナ大阪
Team Ⅰ 08:15 Team Ⅱ 08:45	호텔 출발 (버스로 이동) ホテル出発 (バスで移動)
09:15-12:15	【Team Ⅰ】NPO 법인 미노오 고도모노모리가쿠엔학교 방문 【Team Ⅰ】NPO 法人箕面こどもの森学園訪問
09:15-12:50	【Team Ⅱ】오사카시립 세이메이가오카 초등학교 방문 【Team Ⅱ】大阪市立晴明丘小学校訪問
13:35-16:30	오사카부립 마쓰바라고등학교 방문 大阪府立松原高等学校訪問
17:00	호텔 도착 ホテル到着

Day 5: 2018/01/20 Saturday	
◆복장 : 세미정장 ◆조식 : 1 층 카스테로 / 석식 : 가정방문 ◆숙박 : 호텔 아위나 오사카	◆服装 : ビジネスカジュアル ◆朝食 : ホテル 1F カステロ / 夕食 : ホームビジット ◆宿泊 : ホテルアウィーナ大阪
09:00-10:00	평가회 (호텔 아위나 오사카 회의실) 韓国教職員同士の会議 (ホテルアウィーナ大阪 会議室)
10:10	호텔 출발 ホテル出発
10:30-11:45	시텐노지 견학 四天王寺見学
12:15-13:15	점심 식사 (오사카 보테주 니시점) 昼食 (大阪ぼてぢゅう西店)
14:00-16:00	ESD 워크숍 (회장:기다바타케회관) ESD ワークショップ (北畠会館)
16:30-21:30	가정방문 (대면식:기다바타케회관) ホームビジット (対面式 : 北畠会館)
21:30	호텔 도착 ホテル到着

Day 3: 2018/01/18 Thursday	
◆복장 : 세미정장 ◆조식 : 2 층 소사이 PATIO / 석식 : 환영교류회 ◆숙박 : 호텔 리솔 기후	◆服装：ビジネスカジュアル ◆朝食：2 階レストラン 創菜 PATIO / 夕食：歓迎夕食会 ◆宿泊：ホテルリソル岐阜
07:45	캐리어 송부, 호텔선루트 아리아케 체크아웃, 출발 スーツケース集荷、ホテルサンルート有明チェックアウト、出発
08:40-10:29	신칸센으로 이동（도쿄역→기후하시마역） 新幹線移動（東京駅→岐阜羽島駅）
11:30-12:30	점심 식사 昼食
12:45-13:45	기후성 방문 岐阜城訪問
15:00-17:00	이케다동 교육위원회 예방 池田町教育委員会表敬訪問
18:00-20:00	이케다동 환영만찬회（회장:뉴 이케다） 池田町歓迎夕食会（ニュー池田）
21:00	호텔 체크인 ホテルチェックイン

Day 4: 2018/01/19 Friday	
◆복장 : 세미정장 ◆조식 : 1 층 프리미에루 혹은 6 층 연회장 석식 : 각자 ◆숙박 : 호텔 리솔 기후	◆服装：ビジネスカジュアル ◆朝食：1 階プリミエールまたは 6 階バンケットルーム 夕食：各自 ◆宿泊：ホテルリソル岐阜
08:30	호텔 출발 ホテル出発
09:30-12:25	이케다동립 온치초등학교 방문 池田町立温知小学校訪問
12:35-16:45	이케다동립 이케다중학교 방문（점심 식사） 池田町立池田中学校訪問（昼食）
17:45	호텔 도착 ホテル到着

Day 5: 2018/01/20 Saturday	
◆복장 : 캐주얼 ◆조식 : 1 층 프리미에루 혹은 6 층 연회장 석식 : 가정방문 ◆숙박 : 호텔 리솔 기후	◆服装：カジュアル ◆朝食：1 階プリミエールまたは 6 階バンケットルーム 夕食：ホームビジット ◆宿泊：ホテルリソル岐阜
09:00	호텔 출발 ホテル出発
10:00-10:45	이케다동립 이케다중학교 동아리 활동 견학 池田町立池田中学校 部活動見学
11:00-12:00	평가회（회장:이케다동립 이케다중학교） 韓国教職員による会議（池田町立池田中学校）
12:15-13:00	점심 식사（이케다 온천） 昼食（池田温泉）
13:00-15:00	온천 체험（이케다 온천） 温泉体験（池田温泉）
15:30-19:00	가정방문（대면식:이케다동립 이케다중학교） ホームビジット（対面式：池田町立池田中学校）
20:00	호텔 도착 ホテル到着

Group C

Day 3: 2018/01/18 Thursday	
◆복장 : 정장 ◆조식 : 2 층 소사이 Patio / 석식 : 환영만찬회 ◆숙박 : 호텔 선루트 플라자 나고야	◆服装：ビジネス ◆朝食：2 階 創菜 PATIO / 夕食：歓迎夕食会 ◆宿泊：ホテルサンルートプラザ名古屋
07:45	캐리어 집하 スーツケース集荷
09:00	호텔 선루트 아리아케 체크아웃, 출발 ホテルサンルート有明チェックアウト、出発
09:57-11:31	신칸센으로 이동 (시나가와역→나고야역) 新幹線移動（品川駅→名古屋駅）
12:00-12:45	점심 식사 (사가미 구로카와점) 昼食（サガミ黒川店）
13:00-16:00	아이치현 교육위원회 예방 愛知県教育委員会表敬訪問
16:30-18:00	호텔 선루트 플라자 나고야 체크인, 휴식 ホテルサンルートプラザ名古屋チェックイン、休憩
18:00	호텔 출발 ホテル出発
18:30-20:30	아이치현 환영만찬회 (회장 : 아이리스 아이치) 愛知県歓迎夕食会（アイリス愛知）
21:00	호텔 도착 ホテル到着

Day 4: 2018/01/19 Friday	
◆복장 : 세미정장 ◆조식 : 1 층 레스트랑 / 석식 : 가정방문 ◆숙박 : 호텔 선루트 플라자 나고야	◆服装：ビジネスカジュアル ◆朝食：1 階レストラン / 夕食：ホームビジット ◆宿泊：ホテルサンルートプラザ名古屋
08:00	호텔 출발 ホテル出発
09:15-12:10	아이치현립 미아이특수학교 방문 (점심 식사) 愛知県立みあい特別支援学校訪問（昼食）
13:00-16:30	아이치현립 지구사고등학교 방문 愛知県立千種高等学校訪問
16:45-20:00	가정방문 (대면식 : 아이치현립 지구사고등학교) ホームビジット（対面式：愛知県立千種高等学校）
21:30	호텔 도착 ホテル到着

Day 5: 2018/01/20 Saturday	
◆복장 : 캐주얼 ◆조식 : 1 층 레스트랑 / 석식 : 각자 ◆숙박 : 호텔 선루트 플라자 나고야	◆服装：カジュアル ◆朝食：1 階レストラン / 夕食：各自 ◆宿泊：ホテルサンルートプラザ名古屋
09:15	호텔 출발 ホテル出発
09:45-11:30	나고야성 견학 名古屋城見学
11:45-12:45	점심 식사 (야바톤 사카에 센토라이즈점) 昼食（矢場とん 栄セントライズ店）
13:00-14:30	도쿠가와정원 및 도쿠가와미술관 견학 徳川園・徳川美術館見学
15:00-17:00	평가회 (회장 : 윌 아이치) 韓国教職員による会議（ウィルあいち）
17:15	호텔 도착 ホテル到着

Day 6: 2018/01/21 Sunday	
◆복장 : 정장 ◆조식 : 각 호텔 / 석식 : 각자 ◆숙박 : 신 미야코호텔	◆服装：ビジネス ◆朝食：各ホテル / 夕食：各自 ◆宿泊：新・都ホテル
	Group A
08:30	호텔 아위나 오사카 체크아웃, 출발 (버스로 이동) ホテルアウィーナ大阪チェックアウト、出発（バスで移動）
08:45-10:00	오사카성 견학 大阪城見学
	Group B
08:45	호텔 리솔 기후 체크아웃, 출발 (버스로 이동) ホテルリソル岐阜チェックアウト、出発（バスで移動）
	Group C
08:45	호텔 선루트 플라자 나고야 체크아웃, 출발 (버스로 이동) ホテルサンルートプラザ名古屋チェックアウト、出発（バスで移動）
	All Group
11:30-12:30	점심 식사 (교토 나고미관) 昼食（きょうと和み館）
13:00-15:00	보고회 (TKP 교토 가라스마 컨퍼런스센터 3 층 홀 A) 報告会（TKP 京都烏丸カンファレンスセンター3 階　ホール A）
15:00-15:30	버스로 이동 バスで移動
15:30	신 미야코호텔 체크인 新・都ホテルチェックイン

Day 7: 2018/01/22 Monday	
◆복장 : 캐주얼 ◆조식 : 1 층 레스트랑 론드 혹은 루・프레질	◆服装：カジュアル ◆朝食：1 階レストラン ロンドまたはル・プレジール
07:45	신 미야코호텔 체크아웃, 출발 新・都ホテルチェックアウト、ホテル出発
09:30	간사이국제공항도착, 체크인 関西国際空港到着、チェックイン
	Busan
11:25	간사이국제공항 출발 (KE732) 関西国際空港到発（KE732）
12:55	부산 김해공항 도착 釜山　金海空港到着
	Seoul
11:45	간사이국제공항 출발 (KE2726) 関西国際空港到発（KE2726）
13:40	서울 김포공항 도착 ソウル　金浦空港到着

◆付録 3. 関係者リスト

Group A

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
A-1	김경희	キム・ギョンヒ KIM Kyung Hee	F	인천광역시교육청 Incheon Metropolitan City Office of Education	장학사 指導主事	- -	인천광역시 仁川広域市
A-2	김광래	キム・グァンレ KIM Kwang Rae	M	보성여자중학교 Bosung Girls' Middle School	교사 教師	국어 韓国語	서울특별시 ソウル
A-3							
A-4	김영현	キム･ヨンヒョン KIM Younghyun	F	성포고등학교 Seongpo High School	교사 教師	윤리 倫理	경기도 京畿道
A-5	김용한	キム・ヨンハン KIM Yonghan	M	대구서부고등학교 Daegu Seobu High School	교사 教師	체육 体育	대구광역시 大邱広域市
A-6	김정희	キム・ジョンヒ KIM Jung Hee	F	대청초등학교 Daecheong Elementary School	교장 校長	- -	경상남도 慶尚南道
A-7	김지현	キム・ジヒョン KIM Jihyun	F	광양고등학교 Gwangyang High School	교사 教師	영어 英語	서울특별시 ソウル
A-8	김한내	キム・ハンネ KIM Hannae	F	서울안천초등학교 Seoul Ancheon elementary school	교사 教師	국어, 수학, 과학, 사회 등 韓国語、数学、 科学、社会など	서울특별시 ソウル
A-9	문정현	ムン・ジョンヒョン MOON Jeonghyun	M	목포덕인고등학교 Mokpo Deogin High School	교장 校長	- -	전라남도 全羅南道
A-10							
A-11	박귀자	パク・グィジャ PARK Kuy Ja	F	서울특별시교육청 Seoul Metropolitan Office of Education	장학사 指導主事	중국어 中国語	서울특별시 ソウル
A-12	박선미	パク・ソンミ PARK Seonmi	F	도담중학교 Dodam middle school	교사 教師	국어 韓国語	세종특별자치시 世宗特別自治市
A-13	박정수	パク・ジョンス PARK Jung Soo	M	금정고등학교 Keumjeong High School	교장 校長	- -	부산광역시 釜山広域市
A-14	백에스더	ペク・エスド BACK Esther	F	연수여자고등학교 Yoensu-girls' high school	교사 教師	도덕 道徳	인천광역시 仁川広域市
A-15	백지원	ペク・ジウォン PAEK Ji Won	F	대전동부교육지원청 Daejeon Donbu Office of Education	장학사 指導主事	영어 英語	대전광역시 大田広域市
A-16	변은주	ビョン・ウンジュ PYUN Eunjoo	F	대전외국어고등학교 Daejeon Foreign Language High School	교사 教師	영어 英語	대전광역시 大田広域市
A-17	송지영	ソン・ジヨン SONG Ji Young	F	상록고등학교 Sangrok High School	교사 教師	- -	경기도 京畿道
A-18	유진태	ユ・ジンテ RYU Jin Tae	M	공주교대부설초등학교 Gongju National University of Education Affiliated School	교사 教師	초등 小学校全科	충청남도 忠清南道
☆A-19	이우형	イ・ウヒョン LEE Uhyeong	M	원통고등학교 Wontong High School	교장 校長	국어 韓国語	강원도 江原道
A-20	이재택	イ・ジェテック LEE Jaetaek	M	한국교원대학교부설고등학교 Affilicated High School with Korea National University of Education	교감 教頭	- -	충청북도 忠清北道

☆Group Leader: A-19 Mr. LEE UHYEONG

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
A-21	이현정	イ・ヒョンジョン LEE Hyunjung	F	원화여자고등학교 Wonhwa Girls' high school	교사 教師	영어 英語	대구광역시 大邱広域市
A-22	이환희	イ・ファンヒ LEE Hwanhee	F	양청고등학교 YangCheong High School	교사 教師	국어 韓国語	충청북도 忠清北道
A-23	임영희	イム・ヨンヒ LIM Younghee	F	진건중학교 Jingeon Middle School	교사 教師	역사 歴史	경기도 京畿道
A-24	임현정	イム・ヒョンジョン LIM Hyunjung	F	반천초등학교 Banchon Elementary School	교사 教師	과학, 도덕 理科, 道徳	울산광역시 蔚山広域市
A-25	임희종	イム・ヒジョン LIM Heui Jong	M	전주신흥고등학교 Jeonju Shinheung High School	교감 教頭	국어 韓国語	전라북도 全羅北道
A-26	정달훈	ジョン・ダルフン CHUNG Dalhoon	M	흥덕고등학교 Heungdeok High School	교장 校長	국어 韓国語	충청북도 忠清北道
A-27	정흥순	ジョン・フンスン JEONG Heung Soon	M	양청중학교 Yangcheong Middle School	교감 教頭	미술 美術	충청북도 忠清北道
A-28	채지연	チェ･ジヨン CHAI Ji Yeon	F	선일여자중학교 Sunil Girls' Middle School	교사 教師	인간개발, 생활과학 人間啓発 、生活科学	서울특별시 ソウル
A-29	최병삼	チェ・ビョンサム CHOI Beung Sam	M	마송중앙초등학교 Masong Joongang Elementary School	교장 校長	- -	경기도 京畿道
A-30	하순용	ハ・スンヨン HA Soonyong	F	전라남도교육청 Jeollanamdo Office of Education	장학사 指導主事	영어 英語	전라남도 全羅南道
A-31	황종해	ファン・ジョンヘ HWANG Jong Hae	M	경일고등학교 Gyeongil High School	교사 教師	수학 数学	경상북도 慶尚北道
A-32	강성화	カン・ソンファ KANG Sung Hwa	F	교육부 Ministry of Education	행정주사 行政主事	- -	세종특별자치시 世宗特別自治市
A-33	김용범	キム・ヨンボム KIM Yongbum	M	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	전문관 プログラムスペシャリスト	- -	서울특별시 ソウル

Group B

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
B-1	강한원	カン・ハンウォン KANG Hanwon	M	강원도교육청 Gangwon Province Office of Education	장학관 統括指導主事	영어 英語	강원도 江原道
B-2	김광석	キム・グァンソク KIM Kwang Seok	M	인천청량초등학교 Incheon Cheongryang Elementary School	교감 教頭	- -	인천광역시 仁川広域市
B-3	김기순	キム・キスン KIM Gisun	M	공현진초등학교 GongHyunJin Elenmentary School	교장 校長	- -	강원도 江原道
B-4	김미숙	キム・ミスック KIM Mi Suk	F	광일초등학교 Gwang-il elementary school	교감 教頭	- -	경기도 京畿道
B-5	김영숙	キム・ヨンスック KIM Young Sook	F	세종특별자치시교육청 Sejong City Office of Education	장학사 指導主事	중국어 中国語	세종특별자치시 世宗特別自治市
B-6	김영철	キム・ヨンチョル KIM Young Cheul	M	서울이태원초등학교 Seoul Itaewon Elementary School	교장 校長	- -	서울특별시 ソウル
B-7	김용옥	キム・ヨンオック KIM Yongok	M	위례중앙중학교 Wirye JoongAng Middle School	교장 校長	과학 科学	경기도 京畿道
B-8	김정민	キム・ジョンミン KIM Jeongmin	M	해미중학교 Haemi middle school	교사 教師	국어 韓国語	충청남도 忠清南道
B-9	김치곤	キム・チゴン KIM Chi Gon	M	광주광역시교육청 Gwangju Metropolitan Office of Education	장학사 指導主事	- -	광주광역시 光州広域市
B-10	김형준	キム・ヒョンジュン KIM Hyung Joon	M	울산광역시교육청 Ulsan Metropolitan Office of Education	지방교육행정주사 地方教育行政主事	- -	울산광역시 蔚山広域市
B-11	김혜온	キム・ヘオン KIM Hye On	F	서울안천초등학교 Seoul Ancheon elementary school	교사 教師	국어, 수학, 과학, 사회 등 韓国語、算数、 理科、 社会など	서울특별시 ソウル
B-12	문현진	ムン・ヒョンジン MOON Hyun Jin	F	구영초등학교 Guyeong Elementary School	교사 教師	- -	울산광역시 蔚山広域市
B-13	박소영	パク・ソヨン PARK Soyoung	F	서울상월초등학교 Seoul Sangwol Elementary School	교사 教師	영어 英語	서울특별시 ソウル
B-14	박연실	パク・ヨンシル PARK Yeon Sil	F	수촌초등학교 Suchon Elementary School	교사 教師	- -	충청남도 忠清南道
B-15	박종남	パク・ジョンナム PARK Jongnam	M	광양제철남초등학교 GwangyangJecheolnam Elementary School	교사 教師	- -	전라남도 全羅南道
B-16	송명규	ソン・ミョンギュ SONG Myeonggyu	F	석봉초등학교 Seokbong Elementary school	교사 教師	초등교육 小学校全科	경상남도 慶尚南道
B-17	심주영	シム・ジュヨン SHIM Juyeong	F	용연초등학교 Yongyeon Elementary School	교사 教師	초등교육 小学校全科	울산광역시 蔚山広域市
B-18	안봉선	アン・ボンソン AHN Bongsun	M	송정동초등학교 Songjeongdong Elementary School	교사 教師	영어 英語	광주광역시 光州広域市
B-19	오광래	オ・グァンレ OH Kwangrae	M	문산중학교 Munsan Middle School	교사 教師	영어 英語	경상남도 慶尚南道
B-20	오희숙	オ・ヒスック OH Heesuk	F	한솔중학교 Hansol Middle School	교감 教頭	- -	세종특별자치시 世宗特別自治市

☆Group Leader: B-26 Mr. LEE SEUNGJONG

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
B-21	윤미숙	ユン・ミスック YUN Misook	F	시흥은행중학교 Shiheung Eunhaeng Middle School	교감 教頭	체육 体育	경기도 京畿道
B-22	윤시중	ユン・シジュン YOON Si Joong	F	선일여자중학교 Sunil Girls' Middle School	교사 教師	기술/가정 技術/家庭	서울특별시 ソウル
B-23	이세란	イ・セラン LEE Seran	F	서울신용산초등학교 Seoul Shinyongsan Elementary School	교사 教師	초등교육 小学校全科	서울특별시 ソウル
B-24	이수옥	イ・スオック LEE Su Ok	F	안현초등학교 Anhyun Elementary School	교사 教師	영어 英語	경기도 京畿道
B-25	이순남	イ・スンナム LEE Soonnam	F	경상북도교육청 Gyeongsangbuk-do Office of Education	장학사 指導主事	- -	경상북도 慶尚北道
☆B-26	이승종	イ・スンジョン LEE Seungjong	M	여수삼일중학교 Yeosu Samil Middle School	교장 校長	사회 社会	전라남도 全羅南道
B-27	이재학	イ・ジェハック LEE Jae Hak	M	대구광역시교육청 Daego Metropolitan Office of Education	국제협력담당사무관 国際協力担当事務官	- -	대구광역시 大邱広域市
B-28							
B-29	임현주	イム・ヒョンジュ LIM Hyun Ju	F	인천양촌중학교 Incheon YangChon Middle School	교사 教師	영어 英語	인천광역시 仁川広域市
B-30	전선정	ジョン・ソンジョン JEON Seonjeong	F	양청중학교 Yangcheong Middle School	교사 教師	국어 韓国語	충청북도 忠清北道
B-31	조승균	ジョ・スンギュン CHO Seung Gyun	M	위미중학교 Wimi Middle School	교장 校長	- -	제주특별자치도 済州特別自治道
B-32	최영은	チョイ・ヨンウン CHOI Youngeun	F	신선중학교 Shinseon Middle School	교사 教師	영어 英語	부산광역시 釜山広域市
B-33	임시연	イム・シヨン RIM Siyeon	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	선임전문관 シニアプログラムスペシャリスト	- -	서울특별시 ソウル

Group C

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
C-1	김미향	キム・ミヒャン KIM Mihyang	F	동탄국제고등학교 Dongtan Global Highschool	교사 教師	영어 英語	경기도 京畿道
C-2	김범년	キム・ボムニョン KIM Bum Nyun	M	한국폴리텍다솜고등학교 Dasom High School Korea Polytech	교사 教師	- -	충청북도 忠清北道
C-3	김상우	キム・サンウ KIM Sangwoo	M	대구선명학교 Daegu Seonmyung School	교장 校長	물리 物理	대구광역시 大邱広域市
C-4	김석수	キム・ソックス KIM Suksu	M	전남외국어고등학교 Jeonnam Foreign Language High School	교장 校長	영어 英語	전라남도 全羅南道
C-5	김소형	キム・ソヒョン KIM So Hyeong	F	해성여자고등학교 HaeSung Girls' High School	교사 教師	생활과학, 인간개발 生活科学、人間啓発	서울특별시 ソウル
C-6	김수현	キム・スヒョン KIM Suhyeon	F	안동영명학교 Andong Young Myung School	교사 教師	중학생 담당 中学生担当	경상북도 慶尚北道
C-7	김승태	キム・スンテ KIM Seungtae	M	대전노은고등학교 Daejeon Noeun High School	교장 校長	- -	대전광역시 大田広域市
C-8	김은식	キム・ウンシック KIM Eunsik	M	양청고등학교 Yangcheong High School	교장 校長	- -	충청북도 忠清北道
C-9	김정자	キム・ジョンジャ KIM Jung Ja	F	울산행복학교 Ulsan Haengbok School	교장 校長	- -	울산광역시 蔚山広域市
C-10	박선희	パク・ソンヒ PARK Sun Hee	F	경기도교육청 Gyeonggi Province Office of Education	장학사 指導主事	- -	경기도 京畿道
C-11	박재학	パク・ジェハック PARK Jaehak	M	수원외국어고등학교 Suwon Academy of World Languages	교사 教師	국어 韓国語	경기도 京畿道
C-12	박철진	パク・チョルジン PARK Chuljin	M	대구세명학교 Daegu Semyung School	교장 校長	초등교육 小学校全科	대구광역시 大邱広域市
C-13	신덕재	シン・ドックジェ SHIN Deogjae	M	함열여자고등학교 Hamyeol girls' high school	교감 教頭	- -	전라북도 全羅北道
C-14	오경자	オ・ギョンジャ OH Geong Ja	F	충청북도교육청 Chungcheongbuk-do Office of Education	장학관 統括指導主事	영어 英語	충청북도 忠清北道
C-15	이건희	イ・ゴンヒ LEE Geonhee	M	개성고등학교 Gaesung High School	교사 教師	영어 英語	부산광역시 釜山広域市
C-16	이경임	イ・ギョンイム YI Kyoungyim	F	인천대건고등학교 Incheon Daegun High School	교사 教師	영어 英語	인천광역시 仁川広域市
☆C-17	이욱	イ・ウック LEE Wook	M	원화여자고등학교 Wonhwa Girls' high school	교장 校長	지리 地理	대구광역시 大邱広域市
C-18	이은숙	イ・ウンスック LEE Eun Sook	F	대구세명학교 Daegu Semyung School	교사 教師	초등교육 小学校全科	대구광역시 大邱広域市
C-19	이정규	イ・ジョンギュ LEE Junggyu	M	원주상지여자고등학교 Wonju Sangji Girl's High School	교사 教師	중국어 中国語	강원도 江原道
C-20	이정아	イ・ジョンア LEE Jeongah	F	남악고등학교 Namak High School	교사 教師	영어 英語	전라남도 全羅南道

★Head of the delegation: C-34 Mr. KIM KWANGHO

☆Group Leader: C-17 Mr. LEE WOOK

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
C-21	이종애	イ・ジョンエ YI Jong Ae	F	충청남도교육청 Chungcheongnamdo office of Education	장학사 指導主事	영어 英語	충청남도 忠清南道
C-22	이종혁	イ・ジョンヒョグ LEE Jonghyok	M	충남외국어고등학교 Chungnam Foreign Language High School	교장 校長	- -	충청남도 忠清南道
C-23	임권섭	イム・グォンソブ LIM Kwonseub	M	김해외국어고등학교 GimHae Foreign language Highschool	교장 校長	일본어 日本語	경상남도 慶尚南道
C-24	전병두	ジョン・ビョンドゥ JEON Byeongdu	M	경기자동차과학고등학교 Gyeonggi High School of Automotive Science	교사 教師	컴퓨터 コンピューター	경기도 京畿道
C-25	전정란	ジョン・ジョンラン JEON Jeonglan	F	동국대학교사범대학부속여자고등학교 Girls' High School Attached to College of Education, Dongguk University	교감 教頭	- -	서울특별시 ソウル
C-26	조정의	ジョ・ジョンイ JO Jungui	F	상명고등학교 Minjung School Foundation Sangmyung High School	교사 教師	수학 数学	서울특별시 ソウル
C-27	최문학	チェ・ムンハグ CHOI Moonhak	M	경상남도교육청 Gyeongsangnamdo Office of Education	장학관 統括指導主事	- -	경상남도 慶尚南道
C-28	최병국	チェ･ビョングック CHOI Byung Kuk	M	중산고등학교 Jungsan High School	교장 校長	- -	경기도 京畿道
C-29	최복연	チェ・ボギョン CHOI Bokyeon	F	창원과학고등학교 Changwon Science High School	교사 教師	국어 문학 韓国文学	경상남도 慶尚南道
C-30	김봉련	キム・ボンリョン KIM Bongreun	F	해강고등학교 Haegang High School	교장 校長	- -	부산광역시 釜山広域市
C-31	홍시연	ホン・シヨン HONG Siyeon	F	제주중앙여자고등학교 Jeju Jungang Girls' High School	교사 教師	영어 英語	제주특별자치도 済州特別自治道
C-32	김천홍	キム・チョンホン KIM Chon Hong	M	한국교원대학교 Korea National University of Education	사무국장 事務局長	- -	충청북도 忠清北道
C-33	송종진	ソン・ジョンジン SONG Jong Jin	M	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	팀장 チーム長	- -	서울특별시 ソウル
★C-34	김광호	キム・グァンホ KIM Kwangho	M	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	사무총장 事務総長	- -	서울특별시 ソウル

◆付録 4. 関係機関リスト

関係機関リスト

1. 全体プログラム

国際連合大学（UNU）
〒150-8925　東京都渋谷区神宮前 5-53-70
TEL: 03-5467-1212

文部科学省（MEXT）
大臣官房国際課
〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2
TEL: 03-5253-4111

韓国ユネスコ国内委員会（KNCU）
ユネスコスクールチーム
26 Myeongdong-gil (UNESCO Road), Jung-gu, Seoul 04536, Republic of Korea
TEL: +82-2-6958-4138/4282

韓国教育部
Government Complex-Sejong, 408 Galmae-ro, Sejong 30119, Republic of Korea
TEL: +82-2-6222-6060

駐日本国大韓民国大使館
〒106-8577　東京都港区南麻布 1 丁目 2 番 5 号
TEL: 03-3452-7611

2. 地域受入れプログラム受入機関

大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワーク
代表：山下　克弘（大阪府立北淀高等学校　校長）
担当者：事務局長　伊井　直比呂
〒599-8531　大阪府堺市学園町 1-1 大阪府立大学
TEL: 072-254-9791

池田町教育委員会（岐阜県）
教育長：国枝　磨須美
担当者：主事　水野　愛実
〒503-2492 岐阜県揖斐郡池田町六之井 1468-1
TEL: 0585-45-3111

愛知県教育委員会
教育長：平松　直巳
担当者：課長補佐　彦坂　永利子
〒460-8534 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 2 号
TEL: 052-954-6749

3. 訪問受入校

麹町学園女子中学校・高等学校
理事長：相川　忠洋
校長：山本　三郎
担当者：教頭　馬渕　和士
〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-8
TEL: 03-3263-3011

大阪教育大学附属高等学校池田校舎
校長：太田　順康
担当者：教諭　治部　浩三
〒563-0026 大阪府池田市緑丘 1-5-1
TEL: 072-761-8473

NPO 法人 箕面こどもの森学園
校長：藤田　美保
担当者：ESD コーディネーター　高原　麗奈
〒562-0032 大阪府箕面市小野原西 6-15-31
TEL: 072-735-7676

大阪市立晴明丘小学校
校長：柴山　雅由
担当者：首席　河西　透雄
〒545-0032 大阪市阿倍野区晴明通 10-34
TEL: 06-6661-8526

大阪府立松原高等学校
校長：平野　智之
担当者：教諭　鹿原　優子
〒580-0041 大阪府松原市三宅東 3-4-1
TEL: 072-334-8008

東京都市大学等々力中学校・高等学校
校長：原田　豊
担当者：教諭　三田　明美
〒158-0082 東京都世田谷区等々力 8-10-1
TEL: 03-5962-0104

池田町立温知小学校
校長：仲井　智一
担当者：教頭　林　英樹
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷 1267
TEL: 0585-45-3166

池田町立池田中学校
校長：吉田　秀慈
担当者：教諭　髙橋　和希
〒503-2418 岐阜県揖斐郡池田町草深 485 番地の 1
TEL: 0585-45-3188

渋谷教育学園　幕張中学校・高等学校
校長：田村　哲夫
副校長：田村　聡明
担当者：教頭　深村　誠
〒261-0014 千葉市美浜区若葉 1-3
TEL: 043-271-1221

愛知県立みあい特別支援学校
校長：志賀　則彦
担当者：教頭　白濱　菜穂子　／　教頭　山本　正人
〒444-0802 愛知県岡崎市美合町並松 1-51
TEL: 0564-57-0013

愛知県立千種高等学校
校長：小島　伸之
担当者：教頭　中川　貢　／　教頭　朽名　力
〒465-8507 愛知県名古屋市名東区社台二丁目 206
TEL: 052-771-2121

4. 通訳

A グループ：李　陽民／　姜　喜代　／金　永子

B グループ：李　京美　／　尹　錦実

C グループ：徐　清香　／　高　成淑

5. プロジェクトスタッフ

A グループ：春日　真帆　／高　榮志

B グループ：中山　寧々

C グループ：金　華溶

歓迎レセプション：木下　克己　／　伊藤　啓太

6. 実施団体

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

〒162-8484　東京都新宿区袋町 6　日本出版会館
TEL: 03-3269-4498　　FAX: 03-3269-4510
Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL: http://www.accu.or.jp

田村　哲夫
理事長

足立　直樹
理事（凸版印刷株式会社代表取締役会長）

二ノ宮　正和
総務部　部長

進藤　由美
人物交流部　部長

齋藤　盛午
人物交流部　事務専門員（A グループ・コーディネーター、本事業主担当）

河口　枝里子
人物交流部　事務専門員（B グループ・コーディネーター）

伊藤　妙恵
人物交流部　事務専門員（C グループ・コーディネーター、本事業担当）

高松　彩乃
人物交流部　事務専門員

藤本　早恵子
教育協力部　プログラムスペシャリスト
ユネスコスクール事務局ユニットリーダー

土井　みどり
総務部　事務専門員

（所属・肩書はプログラム実施時のもの）

◆付録 5．過去のプログラム実績

過去のプログラム実績

実施期間	開催地・地域受入れプログラム協力機関	人数
2001 年 2 月 5 日～24 日	開催地:東京都、広島県、佐賀県、鹿児島県、京都府、奈良県 協力機関:広島県教育委員会、佐賀県教育委員会、鹿児島県教育委員会	50 名
2002 年 1 月 24 日～2 月 5 日	開催地:東京都、三重県、兵庫県、奈良県、京都府 協力機関:三重県教育委員会、兵庫県教育委員会	50 名
2003 年 1 月 15 日～28 日	開催地:東京都、山口県、鳥取県、奈良県、香川県、宮崎県、京都府 協力機関:東京都教育委員会、山口県教育委員会、鳥取県教育委員会、香川県教育委員会、宮崎県教育委員会	98 名
2004 年 1 月 29 日～2 月 10 日	開催地:東京都、北海道、静岡県、大分県、愛媛県、奈良県、京都府 協力機関:北海道教育委員会、静岡県教育委員会、大分県教育委員会、愛媛県教育委員会	100 名
2005 年1月 19 日～2 月1日	開催地:東京都、北海道、福島県、兵庫県、鳥取県、奈良県、大阪府、京都府 協力機関:北海道教育委員会、福島県教育委員会、兵庫県教育委員会、鳥取県教育委員会	99 名
2006 年 1 月 11 日～24 日	開催地:東京都、北海道、滋賀県、鳥取県、熊本県、大阪府、京都府 協力機関:北海道教育委員会、滋賀県教育委員会、鳥取県教育委員会、熊本県教育委員会	98 名
2007 年 1 月 23 日～2 月 5 日	開催地:東京都、北海道、兵庫県、埼玉県、奈良県、鹿児島県、大阪府、奈良県 協力機関:北海道教育委員会、宝塚市教育委員会(兵庫県)、さいたま市教育委員会(埼玉県)、奈良県教育委員会、鹿児島県教育委員会	159 名
2008 年1月 22 日～2 月 4 日	開催地:東京都、群馬県、宮城県、兵庫県、埼玉県、秋田県、大阪府、京都府 協力機関:群馬県教育委員会、気仙沼市市教育委員会(宮城県)、宝塚市教育委員会(兵庫県)、さいたま市教育委員会(埼玉県)、秋田県教育委員会	158 名
2009 年 2 月 3 日～16 日	開催地:東京都、福島県、埼玉県、奈良県、高知県、熊本県、大阪府、京都府 協力機関:西郷村教育委員会(福島県)、さいたま市教育委員会(埼玉県)、奈良市教育委員会(奈良県)、高知県教育委員会、熊本県教育委員会	148 名
2010 年 1 月 12 日～25 日	開催地:東京都、宮城県、石川県、和歌山県、大阪府、京都府 協力機関:気仙沼市教育委員会(宮城県)、豊中市教育委員会(大阪府)、金沢市教育委員会(石川県)、和歌山県教育委員会、大阪府教育委員会	149 名
2011 年 1 月 11 日～24 日	開催地:東京都、千葉県、埼玉県、京都府、奈良県、大阪府 協力機関:八千代市教育委員会(千葉県)、さいたま市教育委員会(埼玉県)、与謝野町教育委員会(京都府)、奈良市教育委員会(奈良県)、千葉県教育委員会	149 名
2012 年 1 月 11 日～22 日	開催地:東京都、埼玉県、京都府、宮城県、岡山県、福岡県、大阪府 協力機関:さいたま市教育委員会(埼玉県)、与謝野町教育委員会(京都府)、気仙沼市教育委員会(宮城県)、岡山市教育委員会(岡山県)、福岡県教育委員会	148 名

実施期間	開催地・地域受入れプログラム協力機関	人数
2013年1月16日～27日	開催地：東京都、千葉県、和歌山県、石川県、大阪府、福岡県 協力機関：八千代市教育委員会（千葉県）、橋本市教育委員会（和歌山県）、小松市教育委員会（石川県）、千葉県教育委員会、福岡県教育委員会	144名
2014年1月19日～27日	開催地：東京都、奈良県、和歌山県、石川県、大阪府 協力機関：稲城市教育委員会（東京都）、奈良市教育委員会（奈良県）、橋本市教育委員会（和歌山県）、小松市教育委員会（石川県）	118名
2015年1月18日～26日	開催地：東京都、千葉県、和歌山県、大阪府 協力機関：八千代市教育委員会（千葉県）、千葉県教育委員会、和歌山県教育委員会	98名
2016年2月16日～22日	開催地：東京都、千葉県、埼玉県、長野県 協力機関：狛江市教育委員会（東京都）、さいたま市教育委員会（埼玉県）、長野県教育委員会	111名
2017年1月17日～23日	開催地：東京都、千葉県 協力機関：狛江市教育委員会（東京都）、八千代市教育委員会（千葉県）、千葉県教育委員会	118名
2018年1月16日～22日	開催地：東京都、大阪府、岐阜県、愛知県、京都府 協力機関：大阪ユネスコスクール（ASPnet）ネットワーク、池田町教育委員会（岐阜県）、愛知県教育委員会	97名

計2.092名

●国際連合大学 2017-2018 年国際教育交流事業●
韓国教職員招へいプログラム
実施報告書

2018 年 3 月
編集・発行

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484
東京都新宿区袋町 6 番地　日本出版会館
電話　(03) 3269-4498
Email　accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL　http://www.accu.or.jp

Printed in Japan by WACO Inc. [100]
©2018 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)